資料３　駅周辺の検討状況について

１．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況 **P.02**

２．先行実施地区の検討状況

（１）王子駅前まちづくり整備計画実施基準（素案）【概要版】 **P.08**

（２）新庁舎の検討状況 **P.18**

３．北口周辺地区の検討状況

（１）まちづくり勉強会 **P.19**

（２）道路空間再編に向けた進め方（案） **P.21**

４．エリアプラットフォームの取組状況 **P.24**

５．今後の進め方 **P.26**

参考資料

王子駅前まちづくり整備計画実施基準（素案） **P.27**

令和７年８月
第３回　王子共創会議　資料

1．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況

- **先行実施地区：重点的な取組の検討状況、新庁舎計画、駅前計画について議論**
- **北口周辺地区：王子駅北口周辺の将来イメージ（案）について議論**

■主な意見

＜先行実施地区＞

- 貫通道路は明治通りの**南北で役割を整理**する必要がある【地元委員】
- 開発による**「賑わい」がどのようにあるべきか**意見交換しながら進めてほしい【地元委員】
- 多様な利用者の観点から、低層部の**マネジメントに関して連携できる建付け**を検討してほしい【地元委員】
- **飛鳥山からの眺望**について示してほしい【北区職員】
- **都電脇の河川は、非常にもったいない空間**であり、ぜひ活用を検討してほしい【地元委員】

＜北口周辺地区＞

- 北本通りの**クルドサックは早くやってもらえば商店街も良くなる**と思う【地元委員】
- 広幅員の**北本通り**は交通量も多く商店街を分断しているため、**狭めてもらえると良い**【地元委員】

＜全体＞

- 南口から先の道路は**段階的に整備していくことが分かるように**整理してほしい【会長】
- 貫通道路から、**堀船・栄町へ入る交通量が増える**恐れがあり、対策が必要【地元委員】
- 新庁舎を待たず、**できることから進めてほしい**【地元委員】
- 基盤部会とデザイン部会の意思疎通、部会と共創会議の**意思疎通も円滑に**してスピードを上げて行ってほしい【副会長】
- **短期・中期・長期の整備の道筋**を示すことと、**短期的にできることを積み重ねていく**考えを取り入れてほしい【会長】

エリア全体に関わるご意見

P22「広域の道路ネットワークのイメージ」を参照。

低層部の機能について「先行実施地区デザイン等検討部会」で議論しているとともに、具体的な検討を進めていく。

参考資料P41「景観形成の方針」を参照。

河川の法的な位置づけや管理について東京都と協議中であり、空間の活用方法についてもプランを作成中。

クルドサック実現のための交通の検討と並行して「（仮称）王子駅北口周辺まちづくり整備計画」の策定に向けた勉強会を実施した。（P19「まちづくり勉強会」を参照）

先ずは段階的に社会実験を行い、その結果を分析しながら将来の北本通の在り方を考えていく。

交通管理者との協議を通じて南方面への車の流入対策や道路ネットワークについて検討中。（P22「広域の道路ネットワークのイメージ」を参照）

- 短期的に出来ることとして、エリアプラットフォームを通じた取り組みを行う（P24「エリアプラットフォームの取組状況」参照）
- 時系列に応じた短期・中期・長期でのまちづくりの状況を示していく

王子駅周辺まちづくりの「共創体制」

連携

王子共創会議

- **都市基盤整備部会**
  - 道路や公共交通などの都市基盤に関すること
- **先行実施地区デザイン等検討部会**
  - 新庁舎周辺のまちづくりやデザインに関すること

王子駅周辺エリアプラットフォーム

- 身近な都市空間の活用と検証「まちを使ってみる」
- 地域のユーザーの視点から未来ビジョンを描く

＜王子共創会議とエリアプラットフォームの役割＞

都市政策や都市計画の視点から大きくまちを変えていくための合意形成の場である「王子共創会議」と相互に補完しながら、地域が主体となって今ある身近な都市空間のあるべき姿や使い方について考え、変えていくための活動や試行を重ねながら、ヒューマンスケールのビジョンを描き、王子のまちをより良く変えていく役割を果たします。（王子駅周辺エリアプラットフォーム設立趣意書より）

1．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況

- **都市基盤整備部会**では、道路や広場、公共交通等の都市基盤に関する技術的な議論を行っています。

第１回
2024年1月29日

1．先行実施地区の検討状況について
（防災・バリアフリーネットワーク等）
2．（仮称）王子駅北口周辺地区まちづくり整備計画の検討について
（検討の方向性、広場の機能分担、北口広場のあり方）

第２回
2024年7月2日

1．先行実施地区の検討状況について
（歩行者ネットワークと駅改良、広場空間のあり方、貫通道路のあり方）
2．（仮称）王子駅北口周辺地区まちづくり整備計画の検討について

第３回
2024年10月30日

1．先行実施地区の検討状況について
2．（仮称）王子駅北口周辺地区まちづくり整備計画の検討について

第４回
2025年3月26日

1．駅周辺の検討状況について
（貫通道路の役割、駅のあり方、道路空間再編の進め方　等）

都市基盤整備部会　構成名簿　　2025年3月時点

区分		所属	氏名
1	部会長	埼玉大学名誉教授・日本大学客員教授	久保田　尚
2	副部会長	北区 都市計画審議会委員	三浦　隆
3	東京都	東京都 都市整備局 都市づくり政策部 まちづくり専門課長	小川　直記
4		東京都 都市整備局 都市基盤部 交通企画課 都市基盤事業調整専門課長	大野　誠
5		東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課長	桂　健太郎
6	交通 管理者	警視庁 交通部 交通規制課 都市交通管理室長	中川　誠
7		警視庁 王子警察署 交通課長	荒金 昇二
8	公共施設 管理者	東京都 建設局 道路管理部 路政課長	嶋貫　裕子
9		東京都 建設局 第六建設事務所 管理課長	丸　友文
10		東京都 建設局 河川部 計画課 中小河川計画担当課長	土方　隆
11		北区 土木部 土木管理課長	石本　昇平
12	交通 事業者	東京都 交通局 総務部 技術調整担当課長	近藤　琢哉
13		東京都 交通局 自動車部 計画課長	若田　瑞穂
14		東日本旅客鉄道株式会社 首都圏本部 企画総務部 経営戦略ユニット チーフマネージャー	櫻井　昭夫
15		東京地下鉄株式会社 鉄道本部 開発連携・工事調整担当課長	廣元　勝志
16	アドバイザー	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 担当課長	平山　豪
事務局		北区 拠点まちづくり担当課	

1．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況

- **先行実施地区デザイン等検討部会**では、歩行者動線や空間形成、災害対応拠点、緑化、景観、にぎわい創出に関する議論を行っています。

第１回
2025年4月11日

1．基本方針案、テーマごとの方針、都市計画イメージ
2．新庁舎、民間開発の検討状況

第２回
2025年7月28日

1．王子駅前まちづくり整備方針（素案）
2．都市計画イメージ
3．新庁舎の検討状況

「王子駅前まちづくり整備計画実施基準」の位置づけ

王子駅周辺まちづくりガイドライン
約 30 年後を見据えたまちづくりの方針

王子駅前まちづくり整備計画【先行実施地区】
今後 15 年間で先行的にまちづくりを進める地区の整備計画

↓ **上位計画を補足**

「王子駅前まちづくり整備計画実施基準」

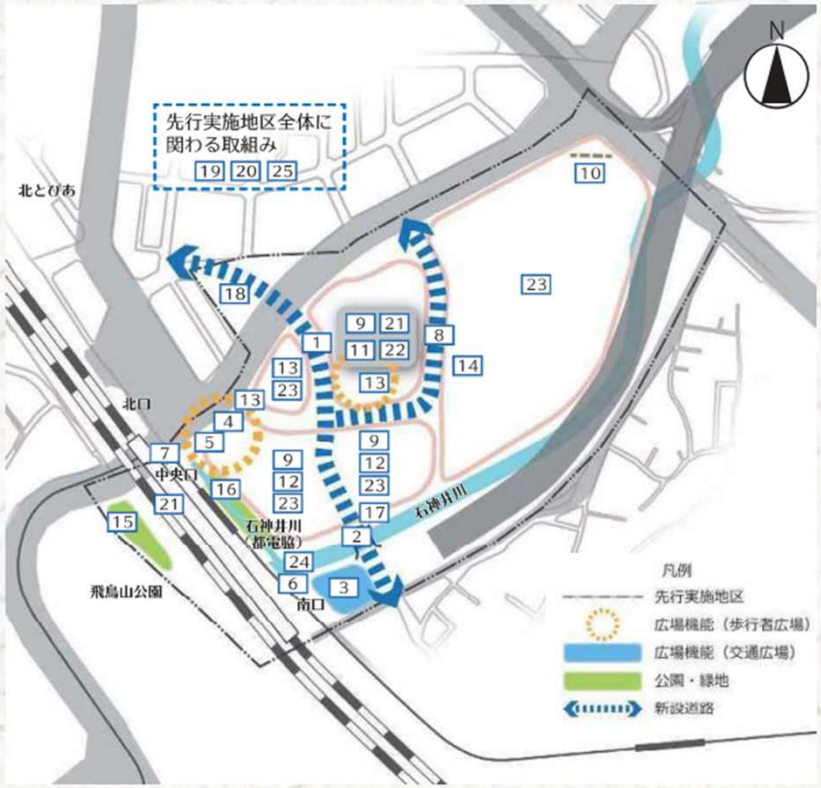
先行実施地区デザイン等検討部会　構成名簿　2025年7月時点

区分		所属	氏名
1	部会長	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授	市古 太郎
2	副部会長	国士舘大学 理工学部 理工学科 まちづくり学系 准教授	西村 亮彦
3		千葉大学 園芸学部 園芸学研究科 准教授	竹内 智子
4	東京都	東京都 都市整備局 都市づくり政策部 まちづくり専門課長	小川 直記
5	事業者・新庁舎関係者	住友不動産 都市開発事業本部 住宅再開発部 第二課長	阿蘇 章剛
6		独立行政法人国立印刷局 総務部 総務課 総務企画官	中野 泰徳
7		北区 新庁舎整備担当部 新庁舎整備担当課長	越部 伸一
8		株式会社松田平田設計 総合設計室　統括部長	山﨑 敏幸
9		株式会社小堀哲夫建築設計事務所 代表取締役	小堀 哲夫
10	北区	北区 政策経営部 企画課長	栗生 隆一
11		北区 危機管理室 防災・危機管理課長	藤野 ユキ
12		北区 生活環境部 環境課長	山口 正博
13		北区 まちづくり部 都市計画課長	栃尾 俊介
14		北区 土木部 土木政策課長	杉戸 代作
15		北区 土木部 土木管理課長	石本 昇平
16	オブザーバー	独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 担当課長	平山 豪
事務局		北区 拠点まちづくり担当課	

1．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況

➢ 王子駅前まちづくり整備計画【先行実施地区】

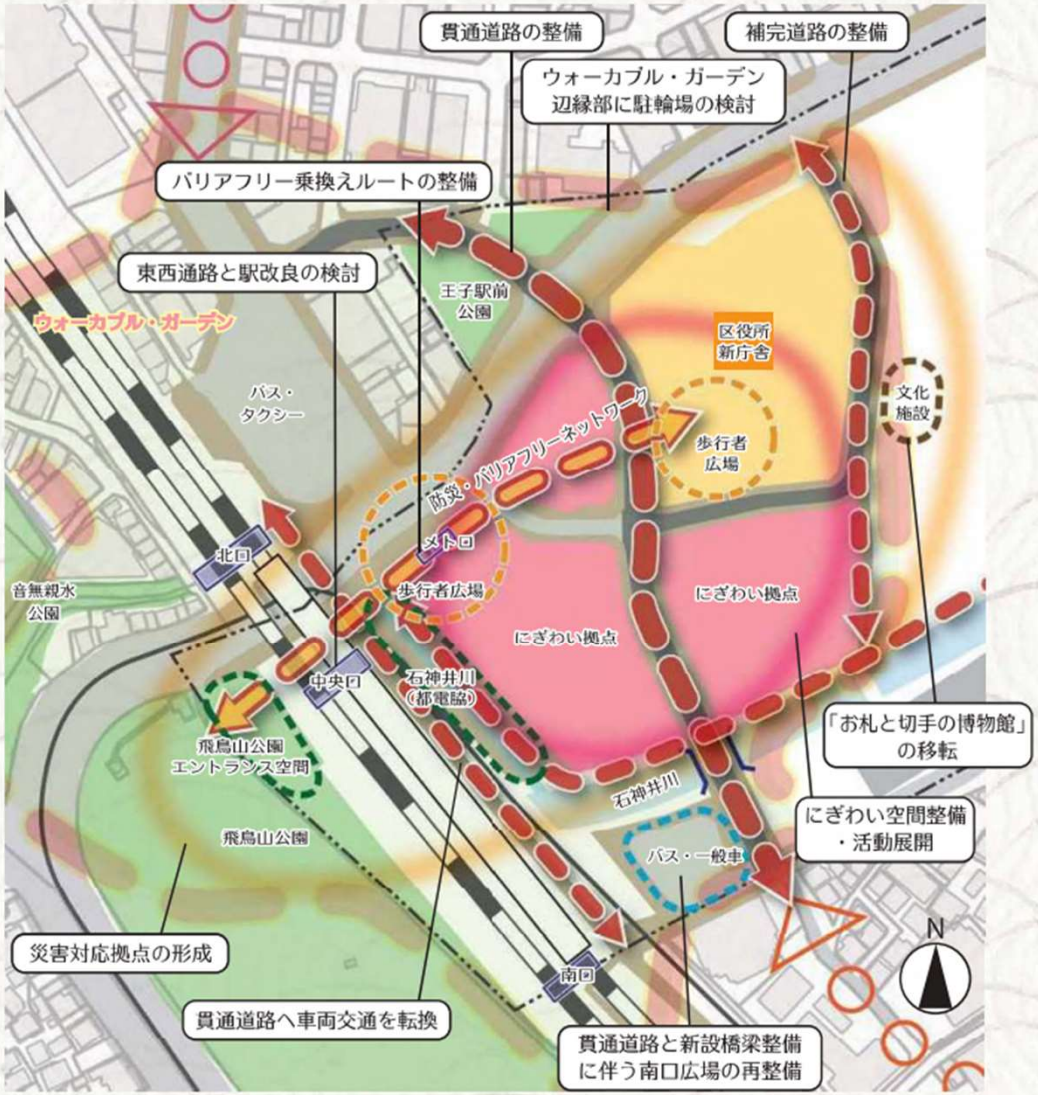
▼重点的な取組みの位置イメージ



※取組の位置等、今後、関係者間で調整を行いながら検討を進めます。

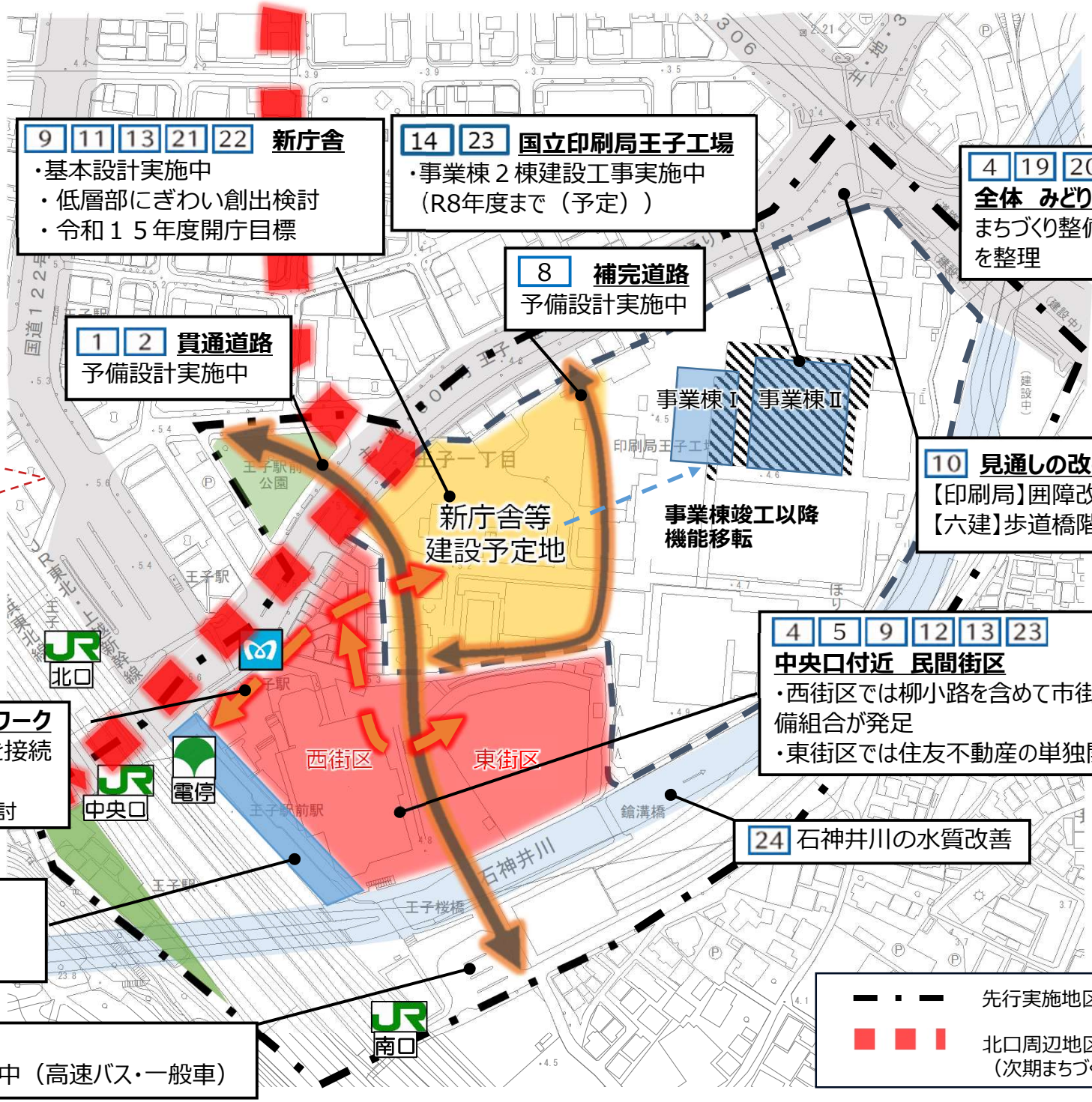
1 貫通道路の整備
2 石神井川横断橋整備
3 南口広場の再整備
4 中央口付近の広場機能確保
5 バリアフリー乗換えルートの整備
6 区道 65 号の歩行者専用化
7 駅周辺まちづくりに伴う JR 中央口の駅改良の検討
8 補完道路の整備
9 駐輪場の確保
10 国立印刷局の囲障整備による見通しの改善
11 新庁舎低層部にぎわい空間の整備
12 駅前にぎわい拠点施設の誘導
13 多様な交流・にぎわい活動の展開
14 工場機能の再編に伴う博物館の再整備
15 飛鳥山公園の広場・エントランス空間整備
16 石神井川（都電脇）周辺を歩行者の空間として利活用
17 石神井川遊歩道の再整備
18 王子駅前公園の機能再編
19 まちなかの緑化
20 飛鳥山を中心とした景観形成
21 回遊と高台避難に資する東西通路整備の検討
22 防災拠点としての新庁舎の整備
23 新庁舎と連携した災害対応拠点の形成
24 石神井川の水質改善
25 脱炭素まちづくりの促進

▼整備イメージ図



※本図は実際に整備される施設やその位置を明示するものではありません。

1．前回（第２回王子共創会議）の振り返りと検討状況



9 11 13 21 22 新庁舎
・基本設計実施中
・低層部にぎわい創出検討
・令和１５年度開庁目標

14 23 国立印刷局王子工場
・事業棟２棟建設工事実施中
（R8年度まで（予定））

4 19 20
全体　みどり・広場
まちづくり整備方針で考え方を整理

8 補完道路
予備設計実施中

1 2 貫通道路
予備設計実施中

（仮称）王子駅北口周辺まちづくり整備計画の検討
交通体系の見直しや市街地整備の検討

10 見通しの改善
【印刷局】囲障改修検討中
【六建】歩道橋階段撤去工事予定

4 5 9 12 13 23
中央口付近　民間街区
・西街区では柳小路を含めて市街地再開発準備組合が発足
・東街区では住友不動産の単独開発を検討中

7 21 防災・バリアフリーネットワーク
高台まちづくりと合わせて、建物間を接続する歩行者デッキの検討中
※飛鳥山までは将来構想として継続検討

24 石神井川の水質改善

16 石神井川（都電脇）
まちづくりにあわせた利活用検討
位置づけ・整備方針を検討中

3 南口広場
貫通道路整備に伴う再編検討中（高速バス・一般車）

先行実施地区
北口周辺地区
（次期まちづくり検討区域）

2．先行実施地区の検討状況（１）王子駅前まちづくり整備計画実施基準（素案）【概要版】

➢ 上位計画との関係

都市計画マスタープラン2020	都市中心拠点 ➡ **都市活動の中枢を担う拠点　にぎわいや交流が生まれる拠点**
王子駅周辺まちづくりグランドデザイン	まちの将来像 ➡ **東京の北の交流拠点　水と緑豊かな王子**
王子駅周辺まちづくりガイドライン	中心としての特色ある役割 ➡ **ウォーカブル・ガーデン** 拠点形成エリアの方向性 ➡ **王子の顔に相応しい魅力ある拠点を形成**
王子駅前まちづくり整備計画（先行実施地区）	まちづくりの方向性 ➡ **土地利用の方針、都市基盤の整備方針等** 重点的な取組み ➡ **25の具体的な取組み内容**

全体に関わる取り組み、相互に関連のある取り組み
➡ **水と緑に関すること**（15 16 17 19 24）、**防災に関すること**（22 23）、**景観形成に関すること**（20）、**にぎわい創出に関すること**（11 12 13 14）

上位計画を補足

王子駅前まちづくり整備計画実施基準

重点的な取り組みを具体化し実施するために必要な都市機能や歩行者空間、緑、景観、防災、にぎわい等に関する考え方や基準等を示す

基本方針

豊かな緑に包まれたつながりのある建物群を形成し、命を守る高台をつくります
人々が集いにぎわう多様な都市機能やオープンスペースを備えた、都市の中心拠点にふさわしいシンボルをつくります

ランドスケープ・コンセプト **“飛鳥山をまちなかにつなぐ”**

テーマごとの方針

- 緑と広場の方針
- 景観形成の方針
- 災害対応拠点の方針
- にぎわい創出の方針
- その他の方針

➢ ランドスケープ・コンセプト

“飛鳥山をまちなかにつなぐ”

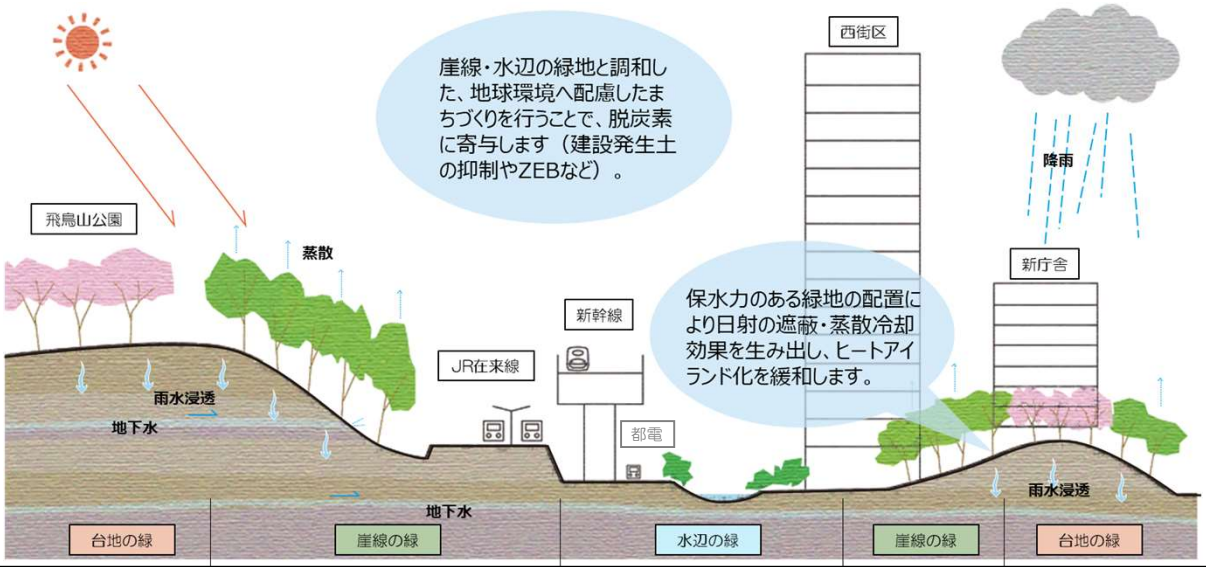
- 飛鳥山の台地を模した建築群の基壇部で、安全・安心の拠点となるまちづくりを目指します。
- 飛鳥山の崖線に倣った斜面の樹林帯で、豊かな緑に包まれた新たな都市景観を創ります。
- 飛鳥山の水辺をつなぐ都市の広場で、人々の集いや賑いに資する機能と体制を整えます。

■ 3つの機能の考え方

台地機能	崖線機能	水辺機能
✓ 高台まちづくりの考え方を官民地元で深度化する ✓ 平時や有事の必要機能の分担や連携を図る ✓ 台地の安心感を居心地よい環境づくりで実現する	✓ 飛鳥山との一体感をまちなかの樹林帯で創り出す ✓ 街区を緑で包み込む飛鳥山モデルを標榜する ✓ 崖線の生物多様性ネットワークを都市につなげる	✓ 緑と水のつながりで区民の誇りとなる広場を創る ✓ 広場と低層部が連携しながら集いや賑わいを図る ✓ 水辺環境がつなぐ地域の力をまちなかに展開する

■ 飛鳥山をまちなかにつなげるための考え方

- 地域に愛されてきた飛鳥山の地勢や植生から学び、新しいまちづくりの環境基盤を創り出します。

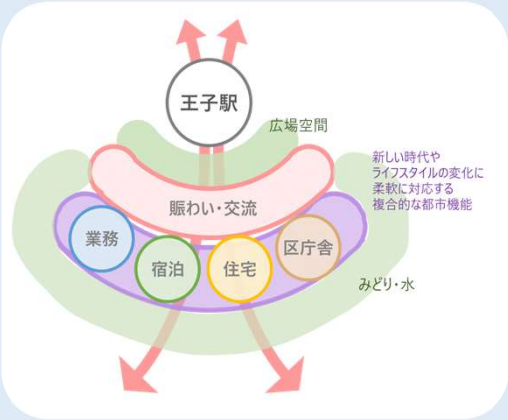


2．先行実施地区の検討状況（１）王子駅前まちづくり整備計画実施基準（素案）【概要版】

➢ 導入機能

方針
北区の都市中心拠点である王子に相応しい、魅力ある顔を形成する商業・業務・居住・宿泊・行政の複合機能の整備

機能と空間の考え方
王子駅中央口と（仮称）庁舎前交差点を中心として、飛鳥山公園と連携する歩行者中心の広場空間と、賑わい・交流の拠点を実現するため、石神井川等の自然環境とも調和した空間に複合機能を導入する。

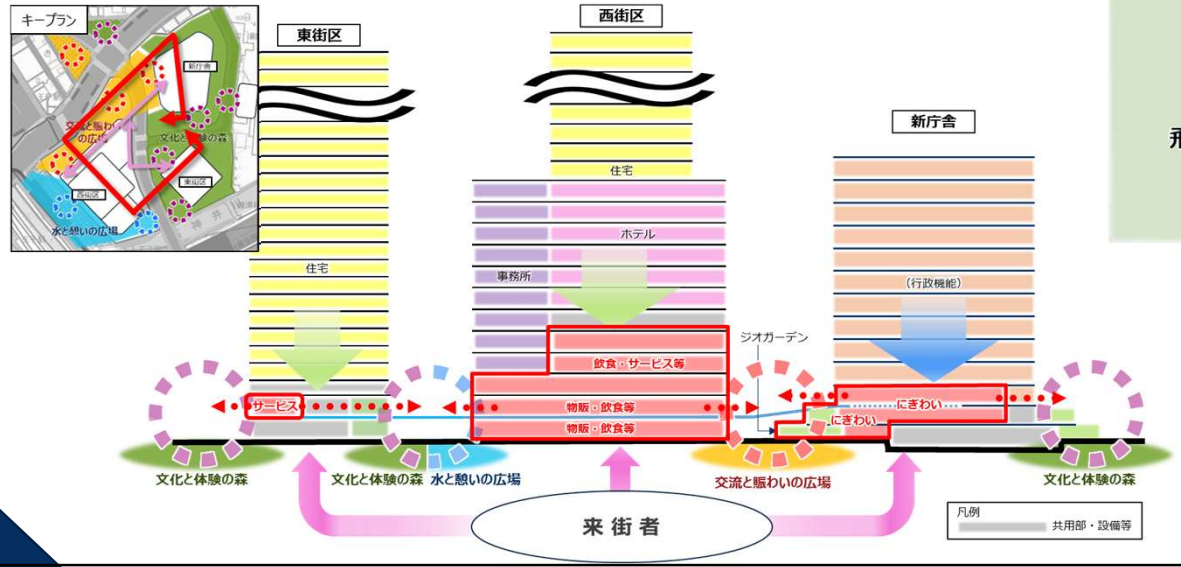


取組１： 王子駅中央口と（仮称）庁舎前交差点を中心に、ウォーカブル・ガーデンを体現するシンボリックな広場空間と歩行者動線に面した賑わい・交流の顔をつくる

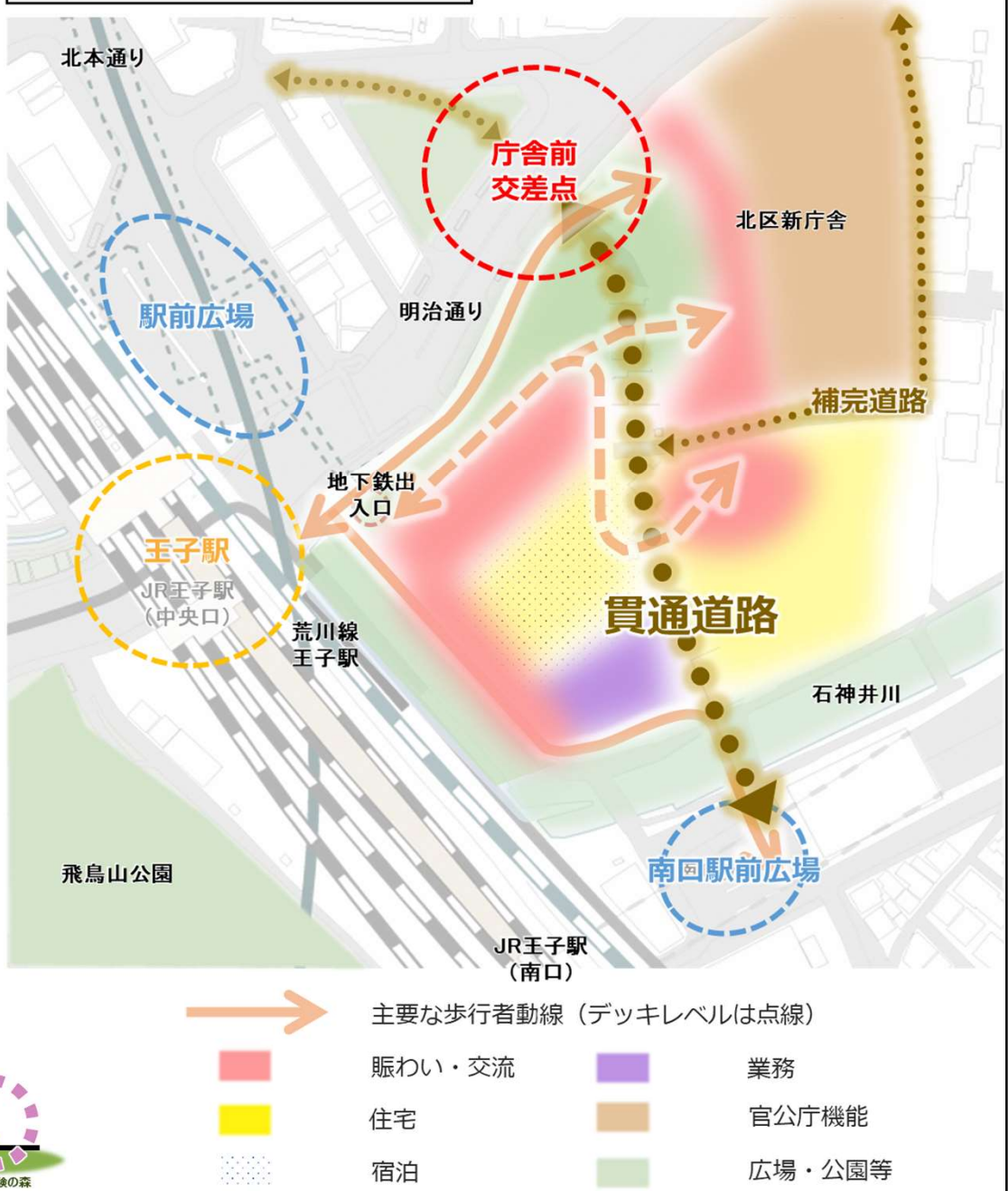
取組２： 王子のまちの魅力を向上させるため、新しい時代やライフスタイルの変化にも柔軟に対応する、複合的な都市機能（商業・業務・居住・宿泊・行政）を導入する。

取組３： 王子の交通利便性や飛鳥山・石神井川等の地域資源を活かし、自然環境と調和した居住・生活機能を実現する

■低層部の機能分布の断面イメージ



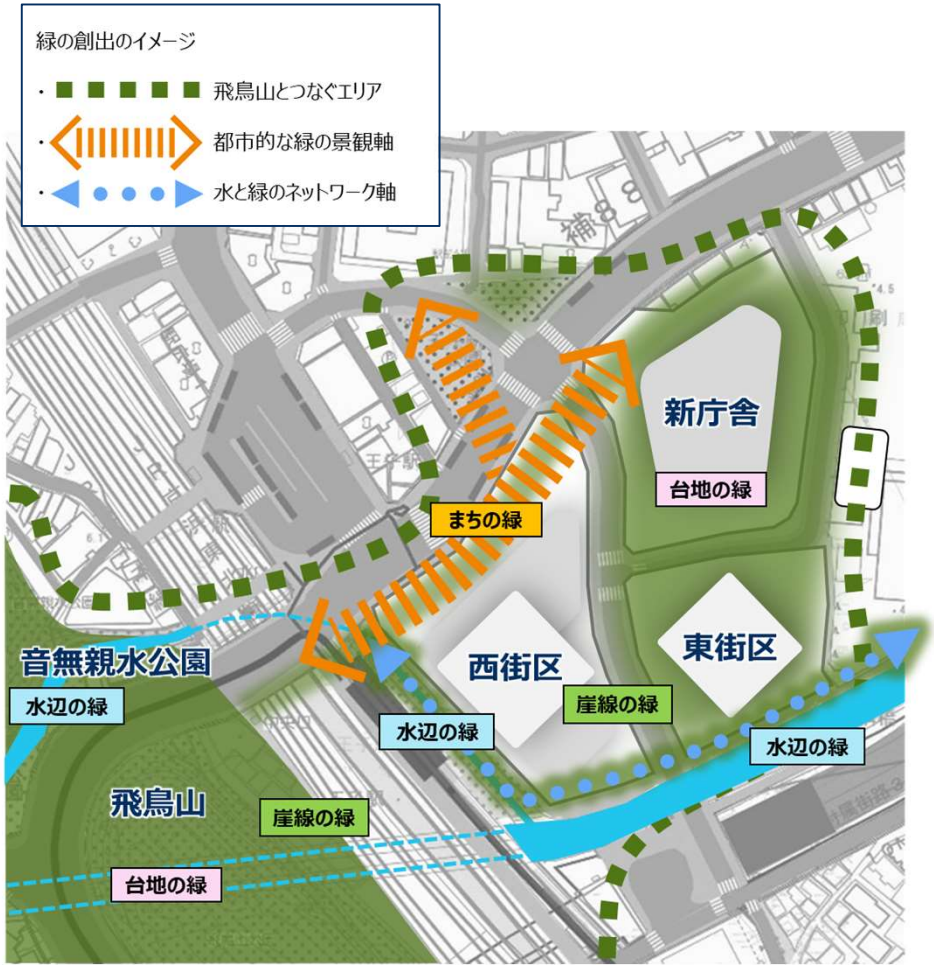
■機能分布のゾーニングイメージ



➢ 3-1．緑と広場の方針

（１）緑の配置

- 新庁舎、東街区を中心にまとまりのある「台地や崖線の緑」を配置します。
- 「都市的な緑の景観軸」には広場空間を創出しながら、飛鳥山をつなぐ象徴的な緑を配置します。
- 石神井川沿いには、飛鳥山とまちなかをつなぐ「水辺の緑」を配置します。



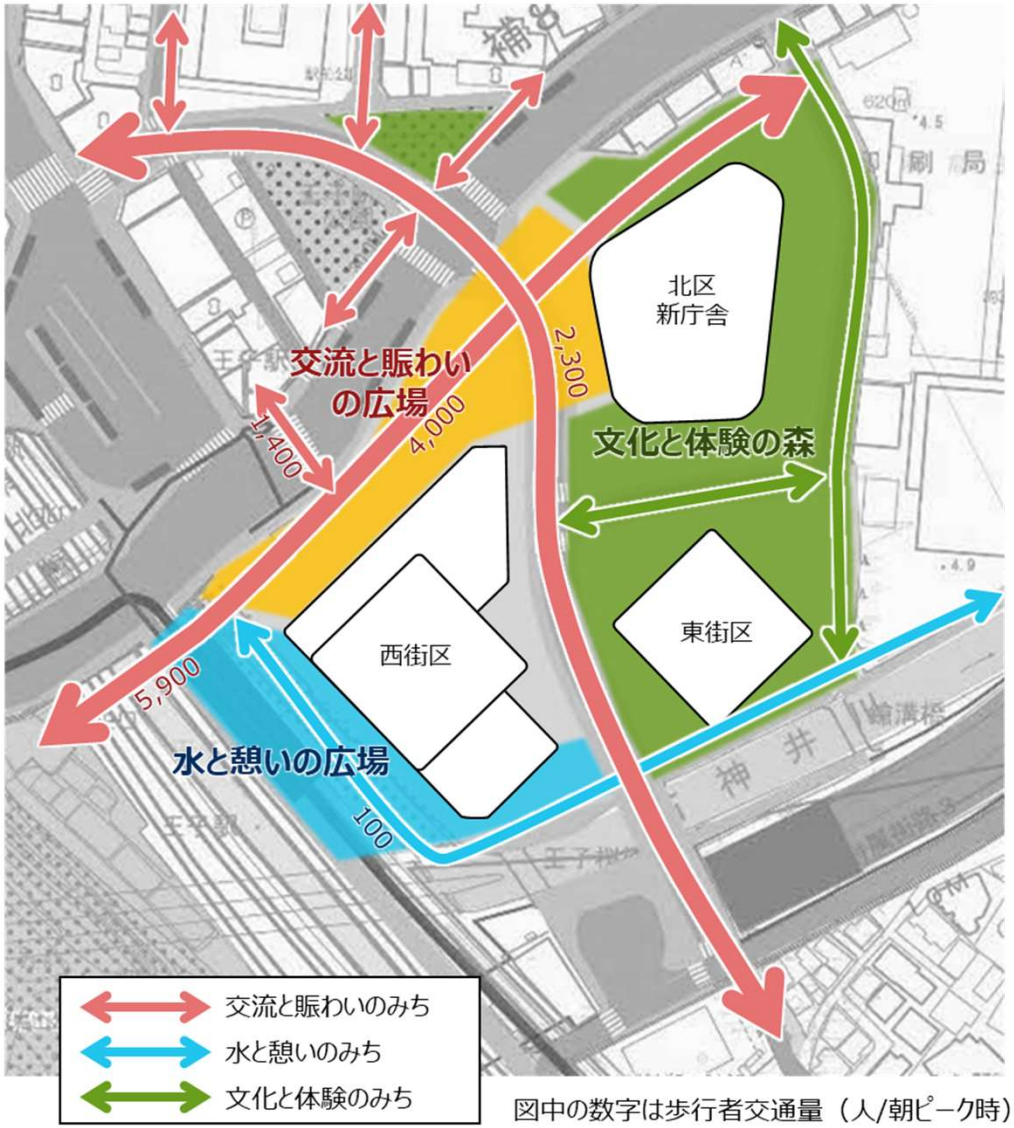
（２）広場の配置と役割

- 3つのテーマによりゾーニングし、場所の特徴や歴史をふまえた個性ある屋外空間を創出します。
- 個々の広場は適正配置を行い、周囲の状況や隣接する建物に応じてそれぞれ異なる役割を担います。
- 既存の王子駅前公園は機能再編し、北口周辺のまちづくりが本格化するまでは地域の交流空間として活用します。
- 人々の交流や活動、緑の保全・育成に持続的に取り組むための仕組みをつくります。

➢ 3-2．歩行者空間の方針　（３）歩行者動線

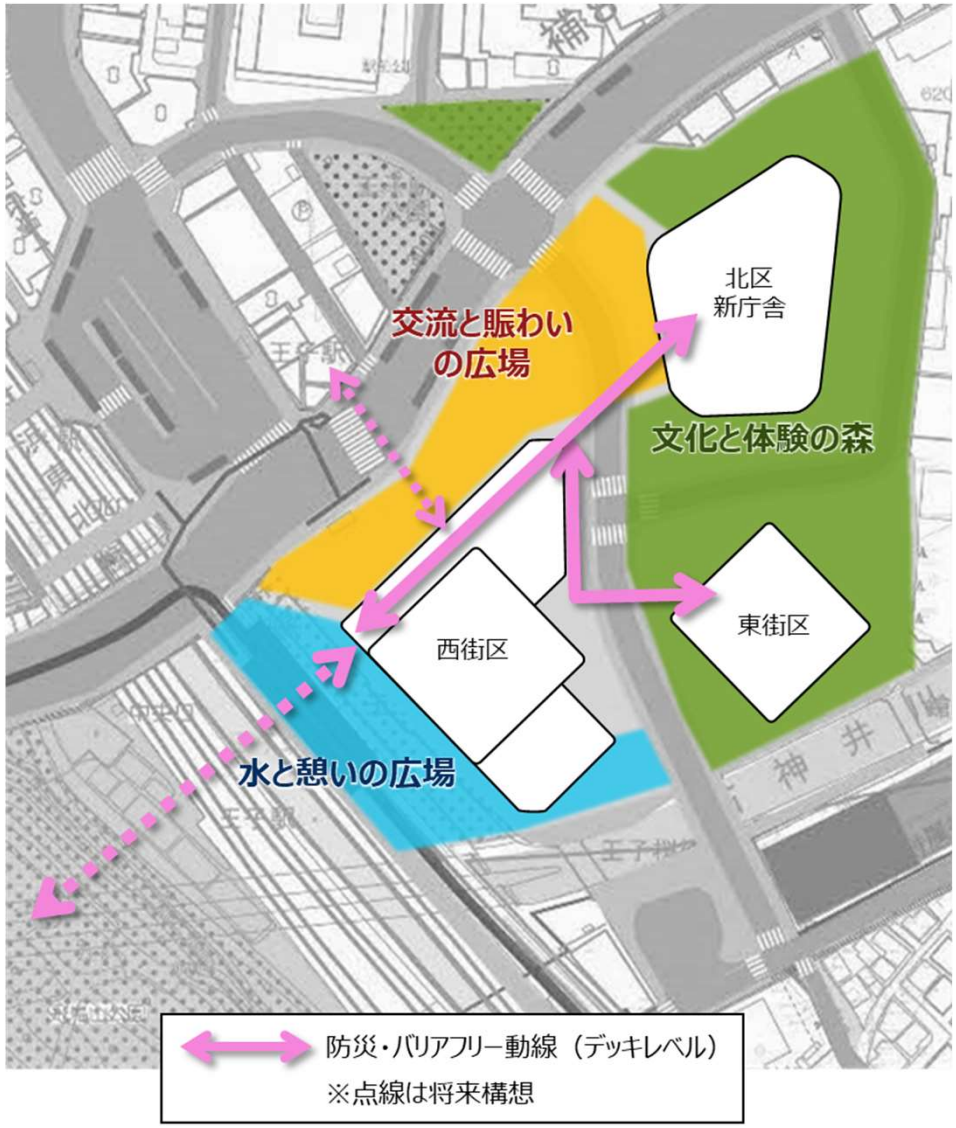
- 地上の広場の役割と連動したみちづくりにより、交流と賑わい、水と憩い、文化と体験のそれぞれを感じられるような、道路と広場が一体となった歩行者空間を形成していきます。
- デッキレベルには、将来的な飛鳥山の高台や北口方面への接続を見据えた、防災・バリアフリーに資する歩行者ネットワークを形成します。

地上レベルの歩行者動線イメージ



図中の数字は歩行者交通量（人/朝ピーク時）

デッキレベルの歩行者動線イメージ



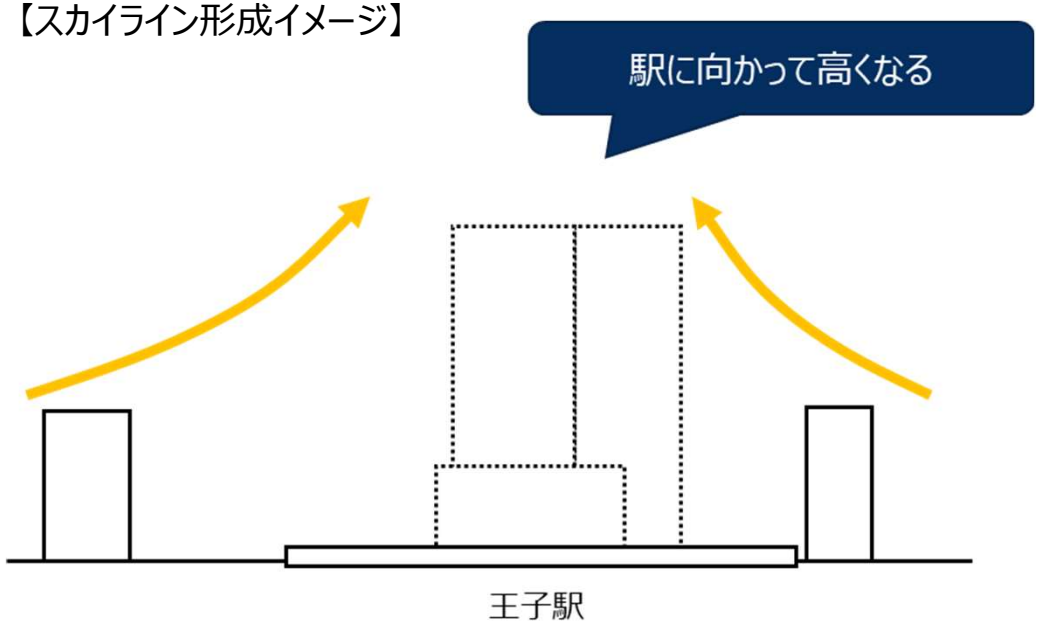
※検討中のため変更となる可能性があります

➢ 3-3．景観形成の方針　（2）景観形成の考え方

①中心拠点にふさわしい景観の形成

- 東京の北の交流拠点として、活力を感じられるまちなみを形成します。
- これまで、王子のシンボルとして区民に親しまれてきた「北とぴあ」よりも駅直近にあたる先行実施地区では、新たな王子のランドマークとなるよう駅に向かって高くなるスカイラインを形成します。
- 来街者にも強く印象に残るまちのイメージを発信するとともに、シビックプライドの醸成に寄与する景観を形成します。

【スカイライン形成イメージ】



◇ その他の景観に関する方針

②飛鳥山公園からの眺望保全

③飛鳥山公園との一体感

④駅前の開放感

⑤建築物等の統一感

⑥まちの記憶の継承

⑦他の景観資源との連携

⑧夜間景観の形成

➢ 3-4．災害対応拠点の方針　（１）高台まちづくりの方針

国・都・沿川７区では、荒川等の氾濫時に命の安全と最低限の避難生活を確保する「高台まちづくり」に取り組んでいます。

高台まちづくりのイメージ

建築物等（建物群）による高台まちづくり

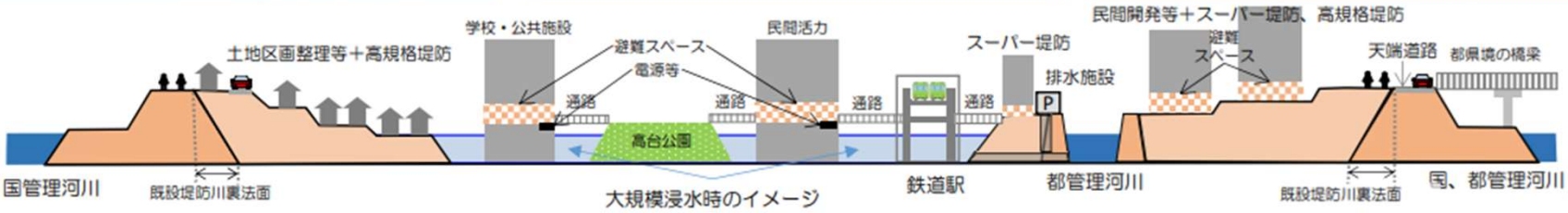
〔平常時〕賑わいのある駅前空間
〔浸水時〕避難スペース等を有する建築物とペデストリアンデッキ等をつないだ建物群により命の安全・最低限の避難生活水準を確保

高台公園を中心とした高台まちづくり

〔平常時〕河川沿いの高台公園
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。道路や建築物等を通じて浸水区域外への移動も可能

高規格堤防の上面を活用した高台まちづくり

〔平常時〕良好な都市空間・住環境を形成
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。浸水しない連続盛土等を通じて浸水区域外への移動も可能



災害に強い首都「東京」形成ビジョン【参考資料】（令和2年12月）より

➢ 3-4．災害対応拠点の方針　（１）高台まちづくりの方針

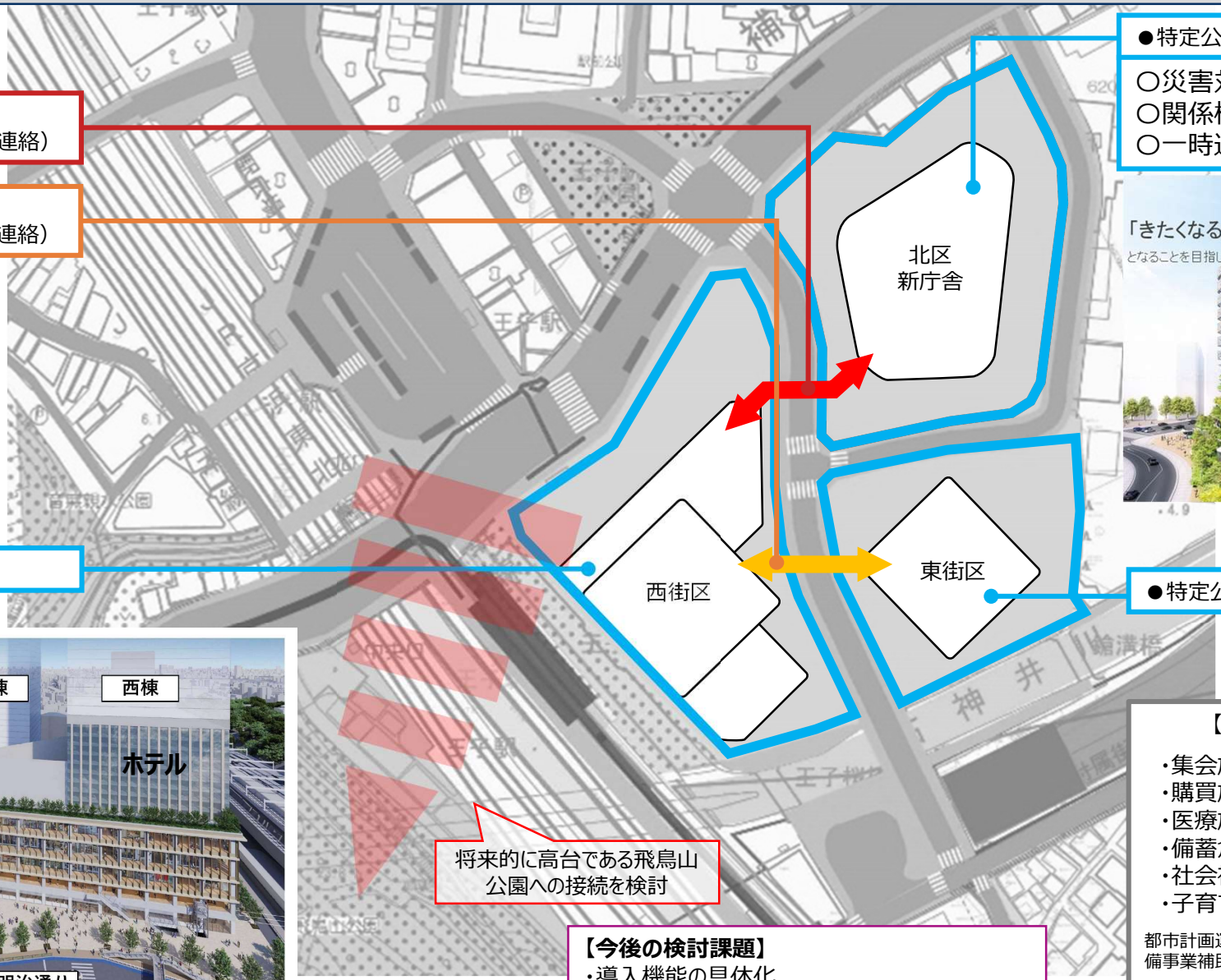
災害対策の中心となる新庁舎と**避難者の受け入れ・避難生活支援施設**を接続することで
建物群としての**災害対応拠点を形成**

●公共施設（道路）
非浸水動線（建物間連絡）

●特定公益施設D
非浸水動線（建物間連絡）

●特定公益施設A

〇災害対策本部機能の強化
〇関係機関や団体との連携強化
〇一時退避場所の整備



●特定公益施設B

●特定公益施設C

広場、デッキの整備イメージ

【 特定公益施設の例 】

・集会施設
・購買施設
・医療施設
・備蓄倉庫等
・社会福祉施設
・子育て支援施設　など

都市計画運用指針および都市安全確保拠点整備事業補助対象施設より抜粋

【今後の検討課題】
・導入機能の具体化
・施設規模等の検討に必要な避難者数の想定

●：一団地の都市安全確保拠点施設

➢ 3-4．災害対応拠点の方針　（２）震災時の対応方針

首都直下地震等の際には、王子駅前等には多くの滞留者が発生し、行き場のない帰宅困難者（北区全域で約7,800人）の発生も予測されます。王子駅周辺には既存の一時滞在施設は存在しますが、駅直近は北とぴあのみであり、駅前にあたる本地区では、一時滞在施設等の震災時の対応における重要な役割を担います。

災害対策本部の設置

国立印刷局王子工場との連携

公民連携による災害時の広場空間活用

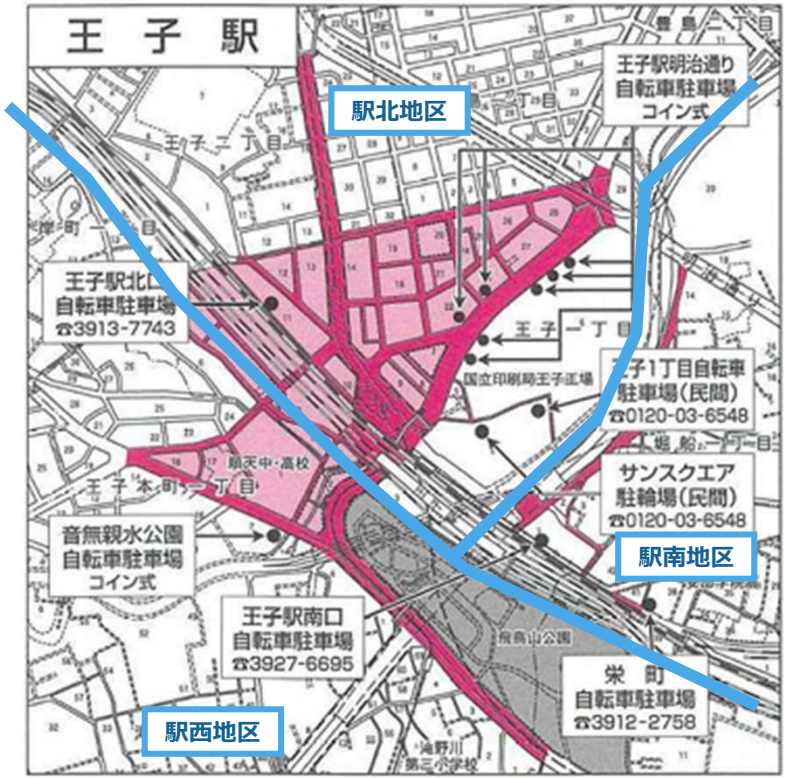
駅前に滞留可能な広場空間の確保

一時滞在施設と防災備蓄の確保

➢ 3-7．駐輪場配置の方針　自転車ネットワーク・駐輪場の配置

- ウォーカブル・ガーデン内の自転車通過動線は明治通り・貫通道路に限定
- 駐輪場はできるだけフリンジとなる位置（駅出入口から約200m程度の位置）に設置
- 放置駐輪防止につながる台数・配置をめざす
- 駅北地区には、現在サンスクエア駐輪場、王子一丁目駐輪場はあるものの、一般利用が可能な駐輪場は不足している。
- 各街区で分担し、駐輪場を整備することで放置自転車のないまちを目指す。

▼放置自転車禁止区域



▼自転車NWの考え方

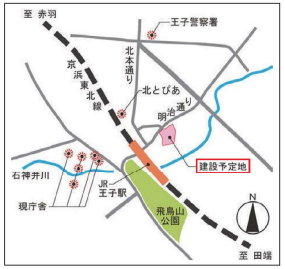
※検討中のため変更となる可能性があります

2．先行実施地区の検討状況　（２）新庁舎の検討状況

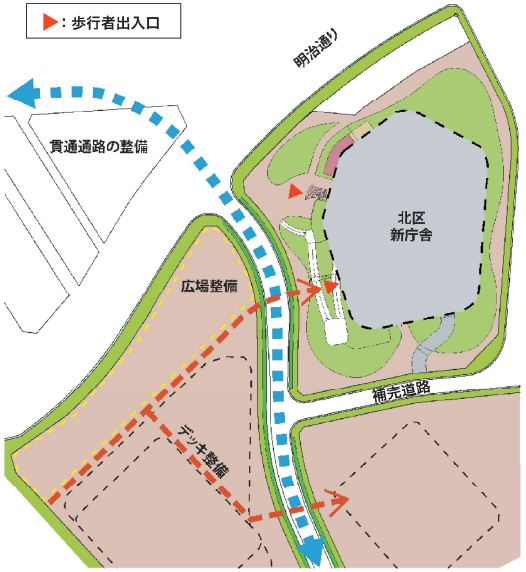
配置計画

計画地周辺で予定されている民間開発と連携して、周辺街区も含めて一体的なまちづくりを進める方針としています。

新庁舎の低層部は飛鳥山の緑をまちにつなぐ「ジオガーデン」とし、緑の中で居心地良く過ごせる場所を設け、荒川氾濫等の大規模水害時には、一時退避場所となることを目指しています。



【新庁舎の建物概要】
- 構造　：S造、一部SRC/RC造
- 敷地面積：約10,000㎡
- 建築面積：約 5,300㎡
- 延べ面積：約48,500㎡
- 階数　：地下1階/地上13階
- 高さ　：約70m



	日時	会場	開催時間	住所
説明会	8/ 6(水)	❶ 赤羽会館(大ホール)【定員60名】	19:00～20:00	赤羽南1丁目 13-1
	8/16(土)	❷ 滝野川会館(小ホール)【定員40名】	16:00～17:00	西ケ原1丁目23-3
	8/23(土)	❸ 北とぴあ(第二研修室)【定員60名】	11:00～12:00	王子1丁目11-1
オープンハウス型説明会	8/ 5(火)	❹ 東田端ふれあい館(ホールA･B)	14:00～16:30	東田端2丁目20-51
	8/ 9(土)	❺ コーナン王子堀船店(2階エスカレーター付近)	10:00～17:00	堀船1丁目23-13
	8/17(日)	❻ イオンスタイル赤羽(北側入口付近)	10:00～17:00	神谷3丁目12-1
	8/18(月)	❼ イトーヨーカドー赤羽店(1階催事場)	10:00～19:00	赤羽西1丁目7-1
	8/20(水)	❽ 金魚亭(霜降銀座商店街)	13:00～19:00	西ケ原1丁目59-9
	8/21(木)	❾ 赤羽北区民センター(第二ホール)	14:00～16:30	赤羽北2丁目25-8-201
	8/27(水)	❿ 北区役所第一庁舎(第一庁舎ロビー)	10:00～16:00	王子本町1丁目15-22

※説明会の3会場は、上記開催時間の約1時間前から開場しております。

- **説明会を区内１０か所開催**
- **基本設計コンセプト**
- **まちづくりへの質問**

3．北口周辺地区の検討状況　（１）まちづくり勉強会

➢ まちづくり勉強会

王子駅北口周辺の土地・建物をお持ちの方を対象にまちづくり勉強会を開催した。

概要

- ■開催日：5月30日（金曜日）19:00～
- ■参加者：21名
- ■内容
  「勉強会の目的と進め方」
  「まちづくりの検討状況の報告」
  「アンケート結果の報告」　　など
- ■次回は9～10月ころ開催予定

＜当日資料の抜粋＞

1．勉強会の目的と進め方

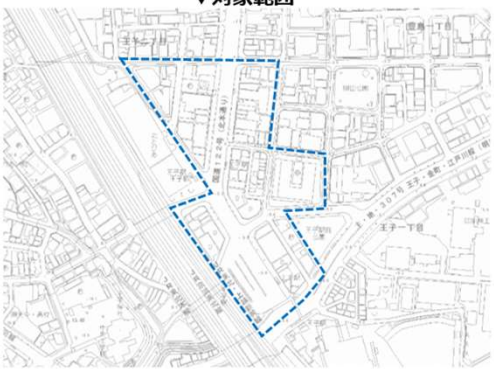
➢ 勉強会の目的

この勉強会は、対象エリア内に土地や建物をお持ちの方を対象として、王子駅周辺まちづくりの進捗状況の報告するとともに、まちづくり手法等についての説明や意見交換を通じて理解を深めていただくことで、より良いまちにつなげていくことを目指します。

- 王子駅周辺のまちづくりの進捗状況のご報告
- 地区計画等のまちづくりルールや、市街地再開発事業等の具体的なまちづくり手法等についての紹介、意見交換

勉強会での内容は**「（仮称）王子駅北口周辺まちづくり整備計画」**に定める取組内容に反映していきます。

▼対象範囲

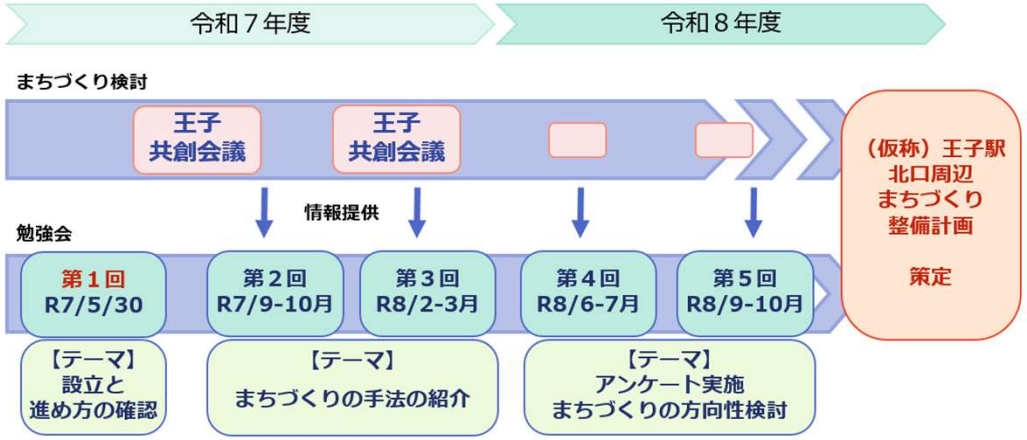


対象範囲に土地・建物をお持ちの方へ
開催通知を配布しております
（飛鳥山スカイハイツは管理組合へ配布）

3

1．勉強会の目的と進め方

➢ 想定スケジュール



※時期とテーマは現時点での想定です

4

3．北口周辺地区の検討状況　（１）まちづくり勉強会

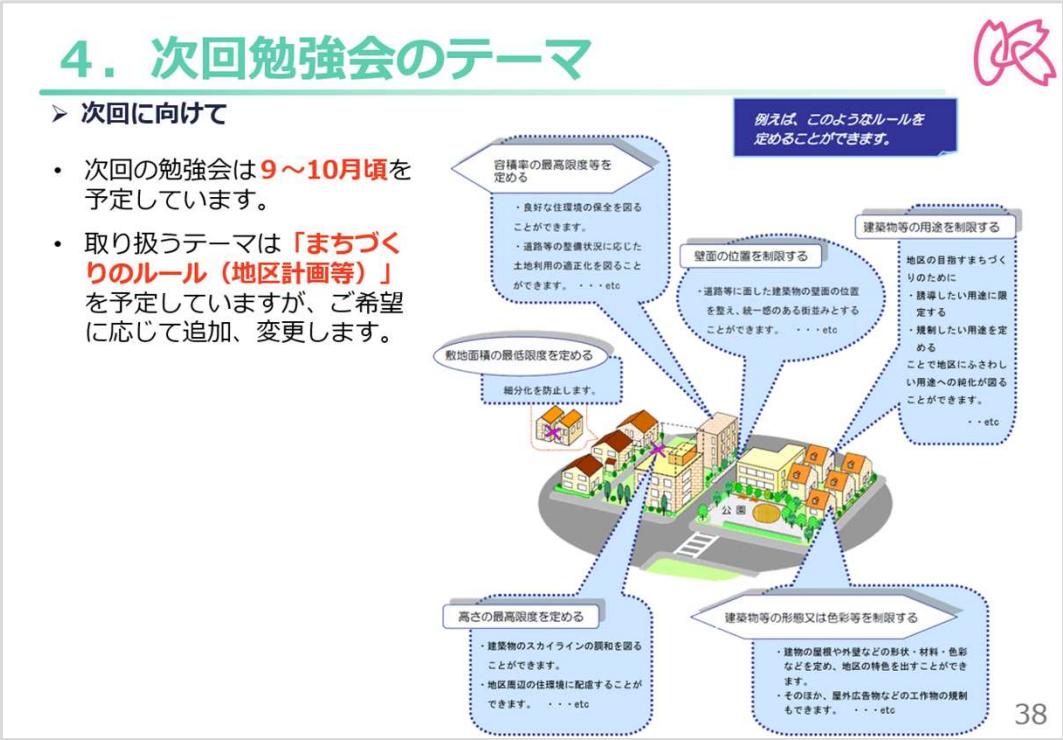
➢ まちづくり勉強会

主な意見（ご意見、感想シートより）

- にぎわいを作るには**若者の力**が必要不可欠
- **北とぴあ建替えの場合の空白時間**が無いよう計画してほしい
- かつては、ほりぶんの前の道を夏は通行止めにして夏まつりや盆踊りをしたが、北本通りの交通量が多くなり、**イベントは自然となくなった**
- **防災の観点**からも**隣り近所が知り合えるようなまち**になると良い
- 北本通り沿いにちょっと休める**公園は必要**
- 共同ビルを建てないかとの誘いが頻繁にくる
- **幹線道路で分離**されているため移動が大変面倒
- 印象として**楽しいまちではない**
- まちなかに**緑が少ない**
- **何年ぐらいの時間**を考えないといけないのか、良くわからなかった
- 他の参加者の方と**意見交換**してみたい
- ある程度強制力を持って進めてほしい
- 知識が不足しているため、次回は勉強して参加したい

主な意見（質疑、応答）

- 北とぴあの改修が延期になったが最終的に今の場所に残るのか
- 王子駅についてJRともっと話をするべき
- 「アクティビティを生み出す交流軸」は誰と誰が交流するのか
- 新庁舎について（階数、低層部のにぎわい等）



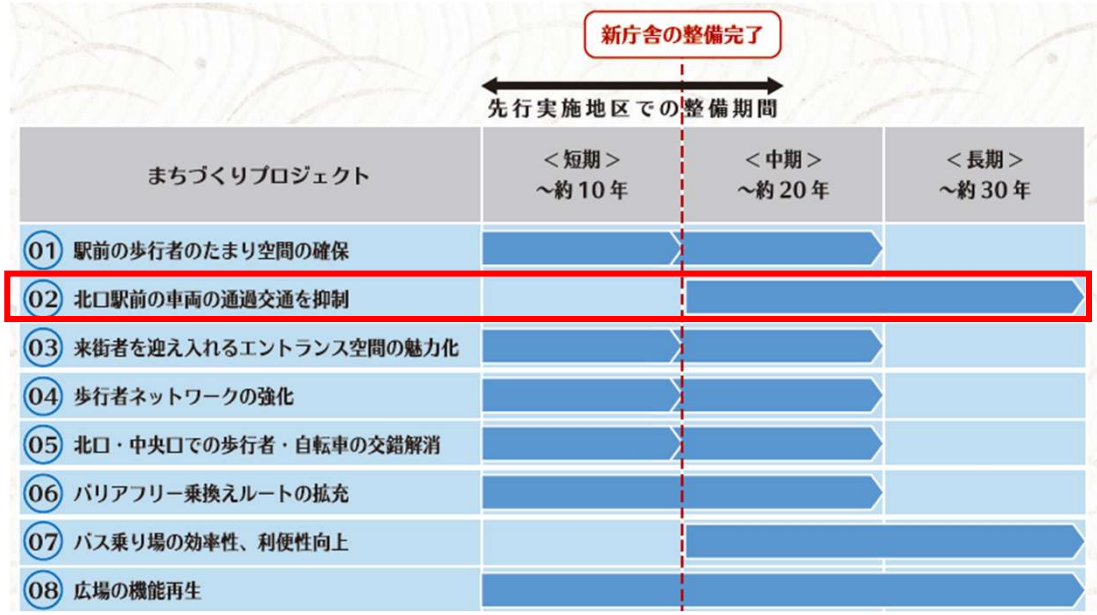
3．北口周辺地区の検討状況　（２）道路空間再編に向けた進め方（案）

➢ 貫通道路の位置づけ

■ まちづくりガイドラインでの位置づけ

- 貫通道路は**「南北のまちをつなぎ、新たな往来を生み出す道路」**と位置付けています。

- 貫通道路（南側）
  - ➢ **短期の取り組み**として**新庁舎や周辺の開発に合わせて整備**します。
- 貫通道路（北側）
  - ➢ 中期・長期のプロジェクト**「北口駅前の車両の通過交通を抑制」**の取り組みとして検討していきます。



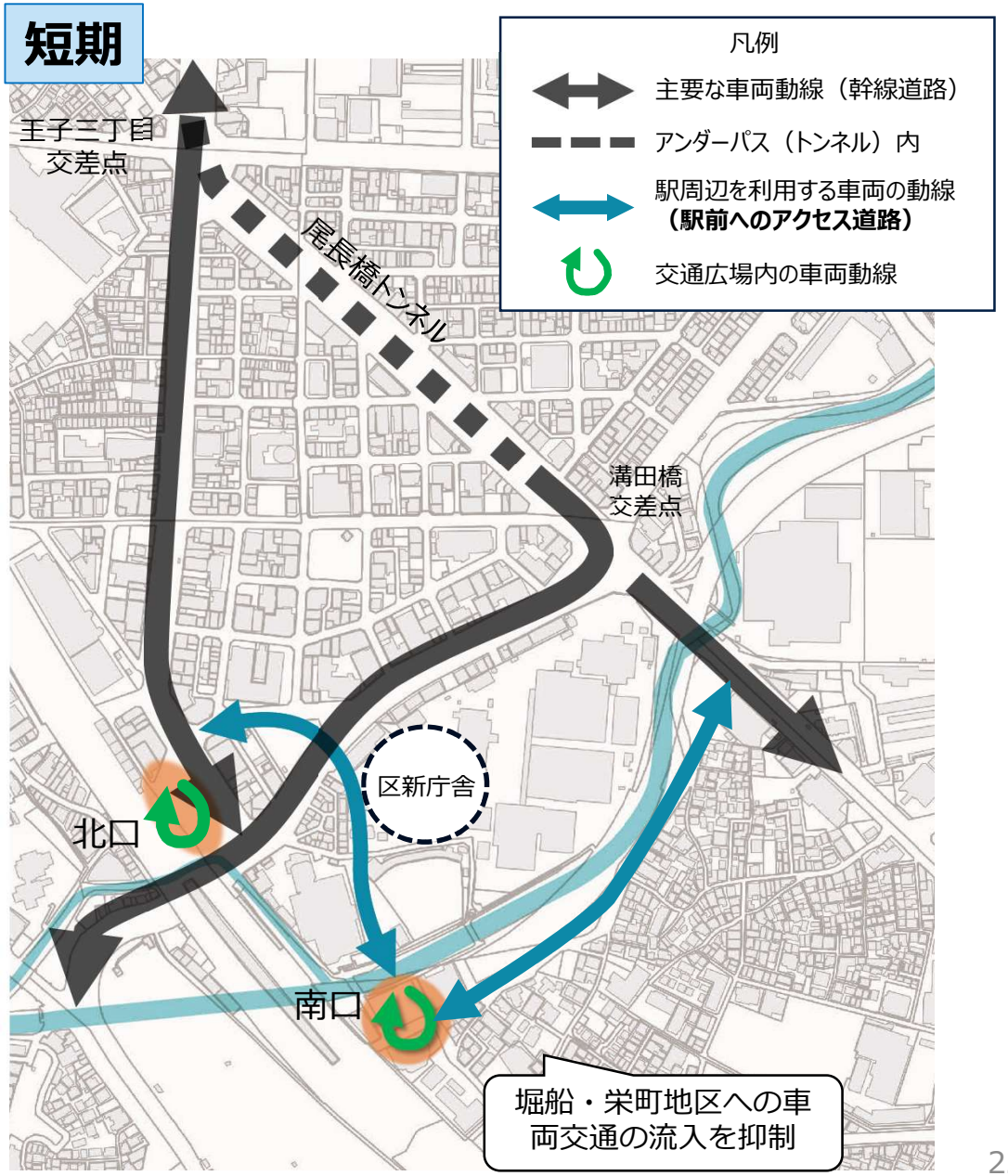
3．北口周辺地区の検討状況　（２）道路空間再編に向けた進め方（案）

➢ 貫通道路の位置づけ

■ 新庁舎開庁時の整備イメージ

先行実施地区の開発を支える道路として整備します。

■ 広域的な道路ネットワークのイメージ



3．北口周辺地区の検討状況　（２）道路空間再編に向けた進め方（案）

➢ 貫通道路の位置づけ

前回の王子共創会議では、**長期的なまちづくりの方向性として考えられる方策の例**として、北本通りの機能を**「幹線道路」→「駅前へのアクセス道路」**に変更することを示しました。

特に将来的な**貫通道路（北側）の位置づけ**が議論のポイントとして挙げられました。

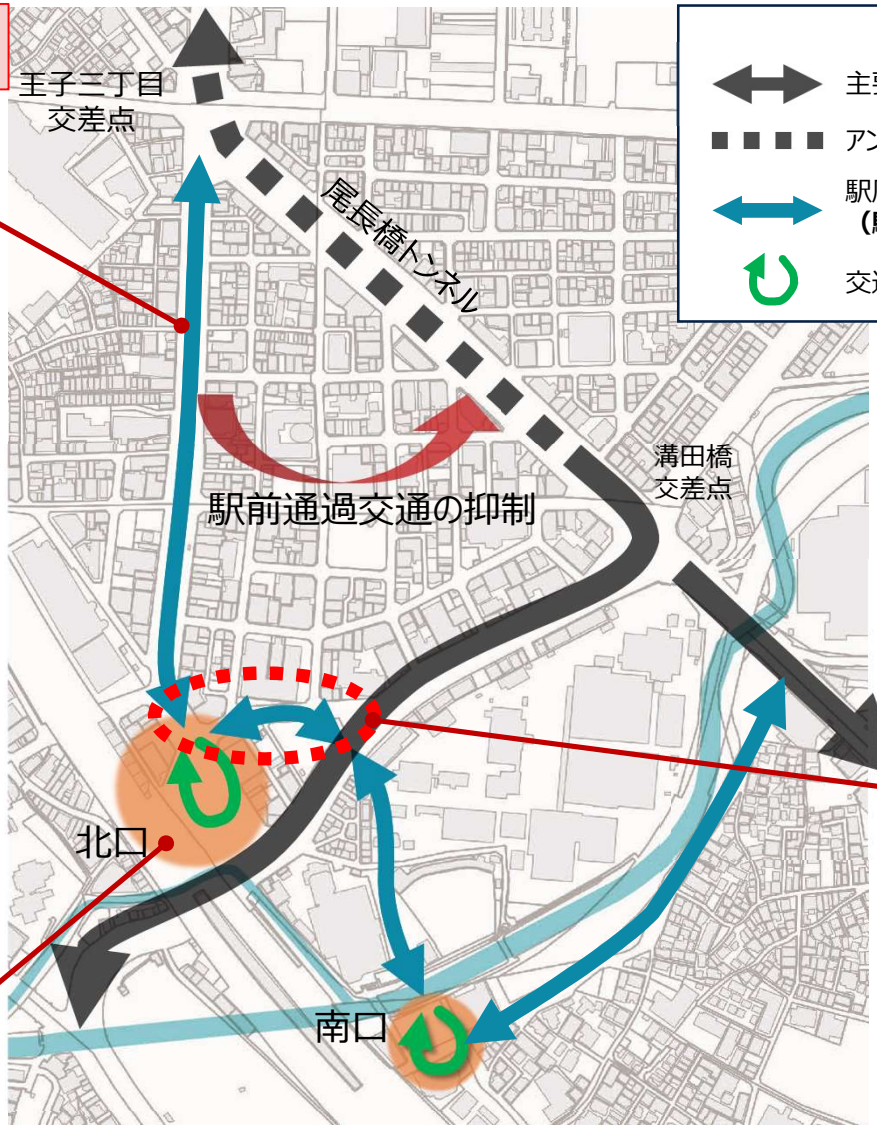
➢ **周辺のまちづくりや道路ネットワークのあり方を踏まえ位置づけを検討**

中長期

道路空間を活用し、様々な人々の憩いや交流の場となる、**ウォーカブルなストリートに**

▼歩行者中心の駅前空間の例
（姫路駅前）

歩行者中心の駅前へ再編



凡例
- 主要な車両動線（幹線道路）
- アンダーパス（トンネル）内
- 駅周辺を利用する車両の動線（駅前へのアクセス道路）
- 交通広場内の車両動線（ロータリー）

貫通道路（北側）の検討の進め方

① 都市基盤整備部会で中・長期の道路ネットワークを検討しています。
② 貫通道路（北側）は道路ネットワークの方針に応じて位置づけを明確にします。
③ 貫通道路（北側）の線形や幅員、車線数を具体化し、公園部分なども活用しながら、整備していきます。

4．エリアプラットフォームの取り組み状況

➢ 令和6年度 立上げ以降の取り組み

王子エリプラの設立総会後からの経過を整理しました。

令和6年度

◆1月15日(水) 設立総会

設立総会→

◆幹事打合せ(全3回)
・キックオフイベントに向けた打合せ

◆ 2月22日･23日(土･日) キックオフイベント OJI EKIMAE PARK CHALLENGE (@三角公園)を開催

【実施概要】
・オープンワーショップ
→公園を訪れた皆さんの声をお聞きしました。
・オープンミーティング
→エリプラメンバーにゲストを交え、公開で王子駅前の今と未来を語りました。
・公園の小さな変化
→切り株の周りやベンチなど公園のあちこちを“少しだけ”変えました。

▽キックオフイベントの当日の様子

キックオフイベントでは、三角公園を訪れた参加者に感想や王子駅周辺の街に対する意見をお聞きしました。
（意見の概要は次ページを参照して下さい）

園内をキレイにしてみたり、新しい使い方をしてみたり、2日間限定で公園のイメチェンにチャレンジしました！

◆幹事打合せ(全2回)
・キックオフイベントの振り返り
・令和7年度へ向けた検討

※第１回 王子駅周辺エリアプラットフォーム全体会資料より抜粋

4．エリアプラットフォームの取り組み状況

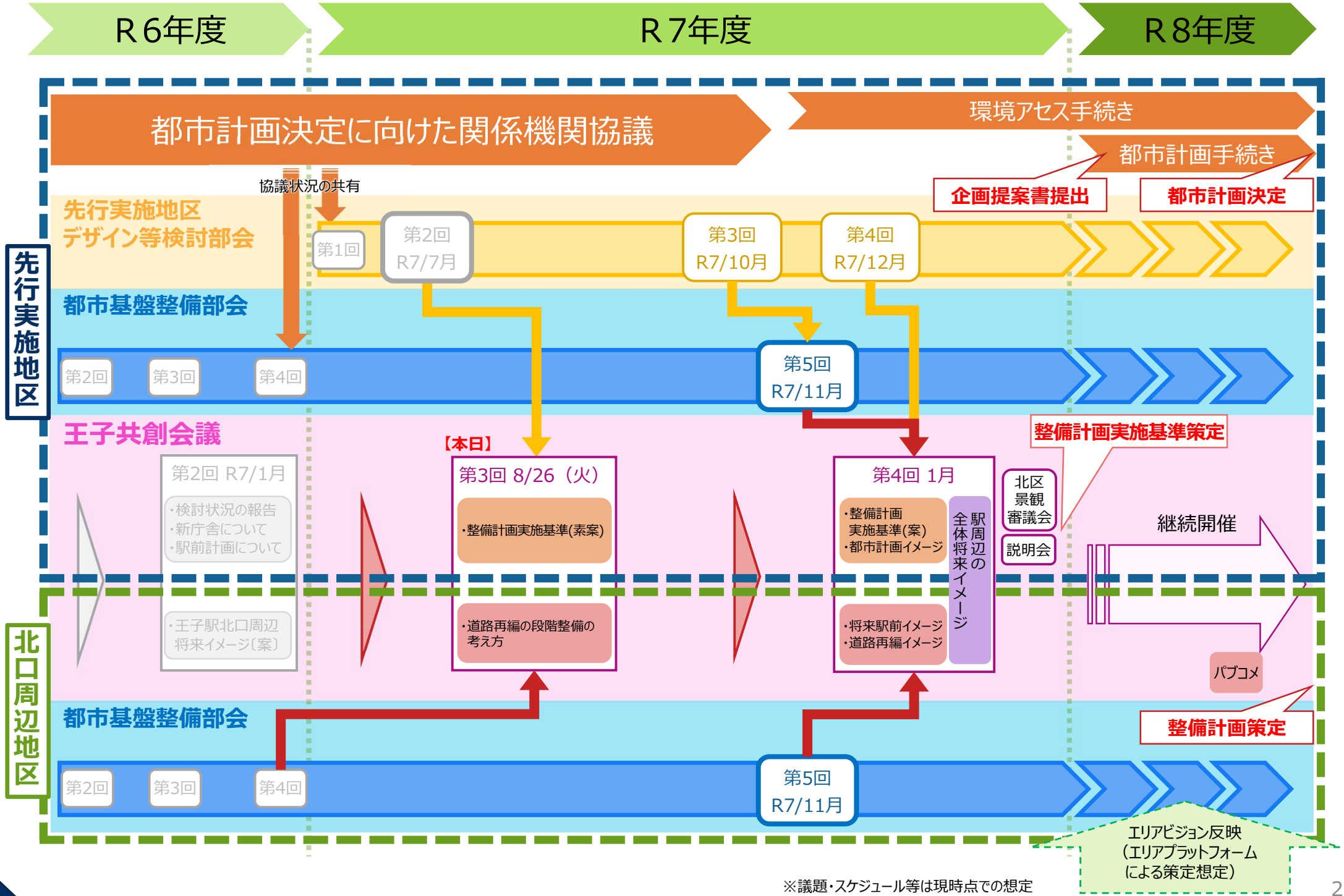
➢ 令和7年度 ワークショップ・社会実験等（予定）

今年度は主に以下の活動を行います。
①OJI Creative Challenge（ワークショップ＆社会実験）：7月～11月
②未来ビジョンの策定に向けたワーキング：10月～3月
③エリアプラットフォームの体制づくりや情報発信：通年
④幹事会：通年
⑤エリプラ全体会（6月24日）・総会（R8年3月頃）：各1回程度

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	R8
①OJI Creative Challenge ～王子駅周辺みんなで試すパブリックスペース活用プロジェクト～	企画・参加者募集	ワークショップ実施（4回程度）	★社会実験実施（10月後半）	効果検証	R8も継続実施
②未来ビジョンの策定に向けたワーキング（WG）			ワーキングの実施（3～4回程度）	★未来ビジョン骨子案作成	R8未ビジョン策定
③体制づくりや情報発信	エリアプラットフォームの体制づくりや情報発信：通年				R8も継続実施
④幹事会	幹事会（通年で随時実施）				R8も継続実施
⑤全体会・総会	★全体会			総会★	

※第１回 王子駅周辺エリアプラットフォーム全体会資料より抜粋

5．今後の進め方



※議題・スケジュール等は現時点での想定

参考資料

王子駅前まちづくり整備計画実施基準（素案）

令和７年８月
第３回　王子共創会議　資料

目次

目次構成（案）

1. 実施基準の目的と位置づけ
   1-1. 目的
   1-2. 実施基準の位置づけ
   1-3. 対象地域

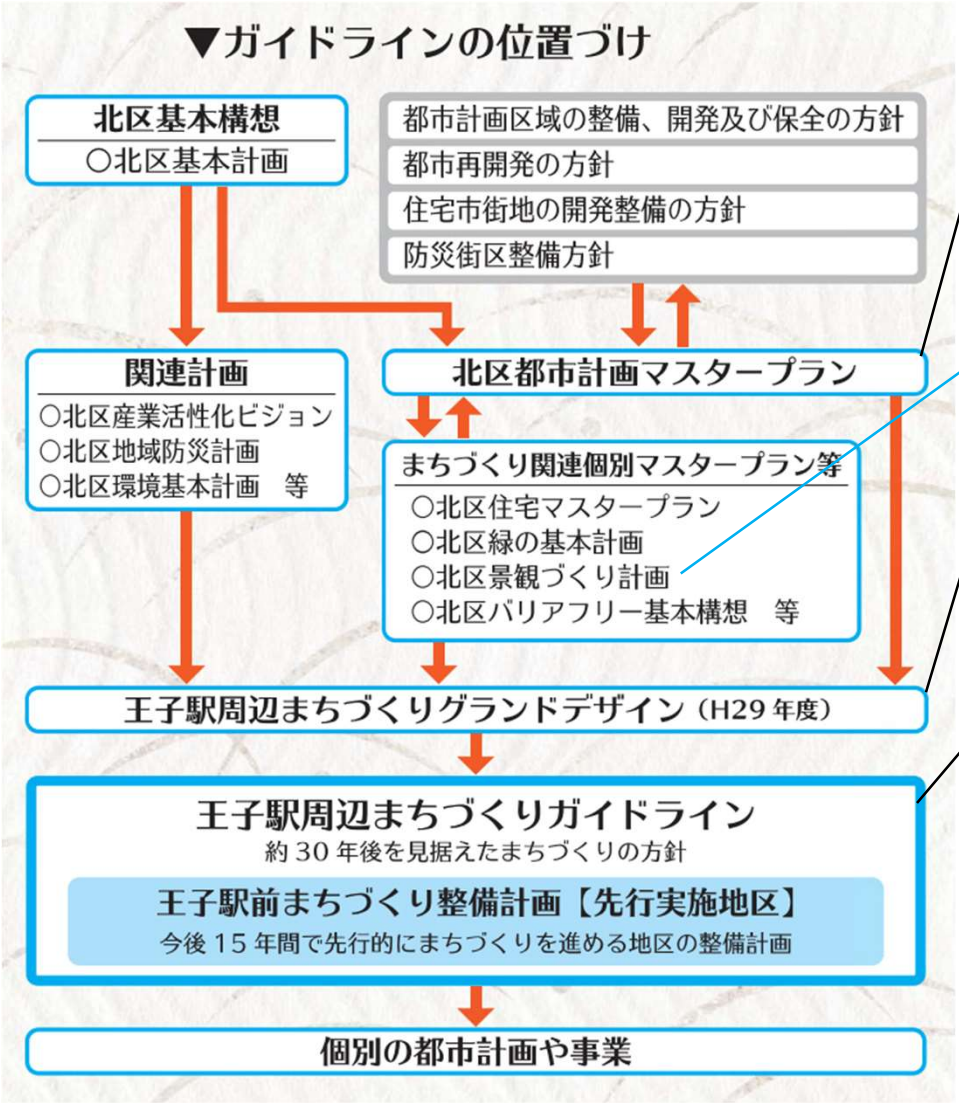
2. 基本的な考え方
   2-1. 先行実施地区の整備方針
   2-2. ランドスケープ・コンセプト
   2-3. 導入機能

3. テーマごとの方針
   3-1. 緑と広場の方針
      （1）緑の配置
      （2）広場の配置と役割
   3-2. 歩行者空間の方針
      （1）みちづくりの方針
      （2）沿道空間形成の方針
      （3）歩行者動線
   3-3. 景観形成の方針
      （1）景観に関する上位計画
      （2）景観形成の考え方
   3-4. 災害対応拠点の方針
      （1）高台まちづくりの方針
      （2）震災時の対応方針
   3-5. 環境対策の方針
      脱炭素まちづくりの促進
   3-6. にぎわい創出の方針
      （1）賑わいに資する機能と空間構成
      （2）エリアマネジメント
   3-7. 駐輪場配置の方針
      自転車ネットワーク・駐輪場の配置
   3-8. 駐車場配置の方針
      （1）駐車場動線
      （2）駐車場の配置

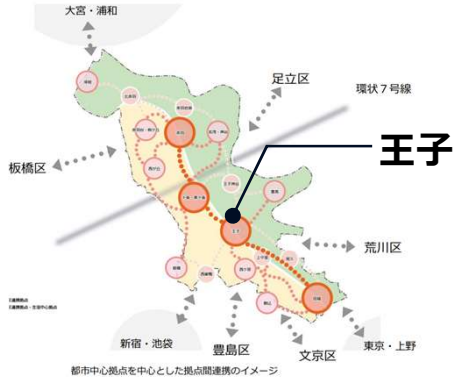
（　　）：内容については、今後検討する項目

1．整備方針の目的と位置づけ

上位計画における先行実施地区の位置づけ



都市中心拠点：
「地域特性に応じた都市機能集積を促進することにより、**各地域の都市活動の中枢を担う拠点**として育成します。また、交通結節機能の強化を進めるともに、各種交通サービスがシームレスにつながった環境が形成されることで、他の拠点との機能分担や連携を促進し、**にぎわいや交流が生まれる拠点**としての魅力向上を図ります。」



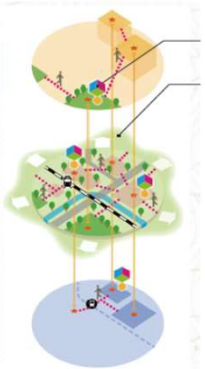
- ✓ **飛鳥山公園**をはじめ、**崖線**、**都電**、**石神井川**などの**重要景観要素を活かした景観づくり**
- ✓ **飛鳥山公園からの眺望保全**や**一体感**など飛鳥山が引き立ち広がりのある景観づくり

まちの将来像を定めるとともに、基本方針として「交通拠点機能の強化」「にぎわいと活力の創出」「自然・文化・歴史資源の活用」「防災性の向上」を位置づけ

まちの将来像
東京の北の交流拠点　水と緑豊かな王子

特に駅に近いエリアを、駅周辺を飛鳥山のふもとに広がる**「ウォーカブル・ガーデン」**と位置付けるとともに、その実現と分断要素を解消するため**「コネクティング・コア」**の形成を位置づけ

拠点形成エリアのまちづくりの方向性：
商業・業務・住宅等を含む複合的な土地利用により高度利用を促進し、**王子の顔に相応しい魅力ある拠点を形成**する



再開発等の進展を踏まえ、現在のガイドライン等の補足や具体化が必要な、歩行者空間、災害対応拠点、緑・景観（建物高さ）、にぎわいに資する都市機能等について、エリアとしての方針を定める。

2．基本的な考え方

➢ 上位計画との関係

都市計画マスタープラン2020	都市中心拠点 ➡ **都市活動の中枢を担う拠点　にぎわいや交流が生まれる拠点**
王子駅周辺まちづくりグランドデザイン	まちの将来像 ➡ **東京の北の交流拠点　水と緑豊かな王子**
王子駅周辺まちづくりガイドライン	中心としての特色ある役割 ➡ **ウォーカブル・ガーデン** 拠点形成エリアの方向性 ➡ **王子の顔に相応しい魅力ある拠点を形成**
王子駅前まちづくり整備計画（先行実施地区）	まちづくりの方向性 ➡ **土地利用の方針、都市基盤の整備方針等** 重点的な取組み ➡ **25の具体的な取組み内容**

全体に関わる取り組み、相互に関連のある取り組み
➡ **水と緑に関すること**（15 16 17 19 24）、**防災に関すること**（22 23）、**景観形成に関すること**（20）、**にぎわい創出に関すること**（11 12 13 14）

上位計画を補足

王子駅前まちづくり整備計画実施基準

重点的な取り組みを具体化し実施するために必要な都市機能や歩行者空間、緑、景観、防災、にぎわい等に関する考え方や基準等を示す

基本方針

豊かな緑に包まれたつながりのある建物群を形成し、命を守る高台をつくります
人々が集いにぎわう多様な都市機能やオープンスペースを備えた、都市の中心拠点にふさわしいシンボルをつくります

ランドスケープ・コンセプト **“飛鳥山をまちなかにつなぐ”**

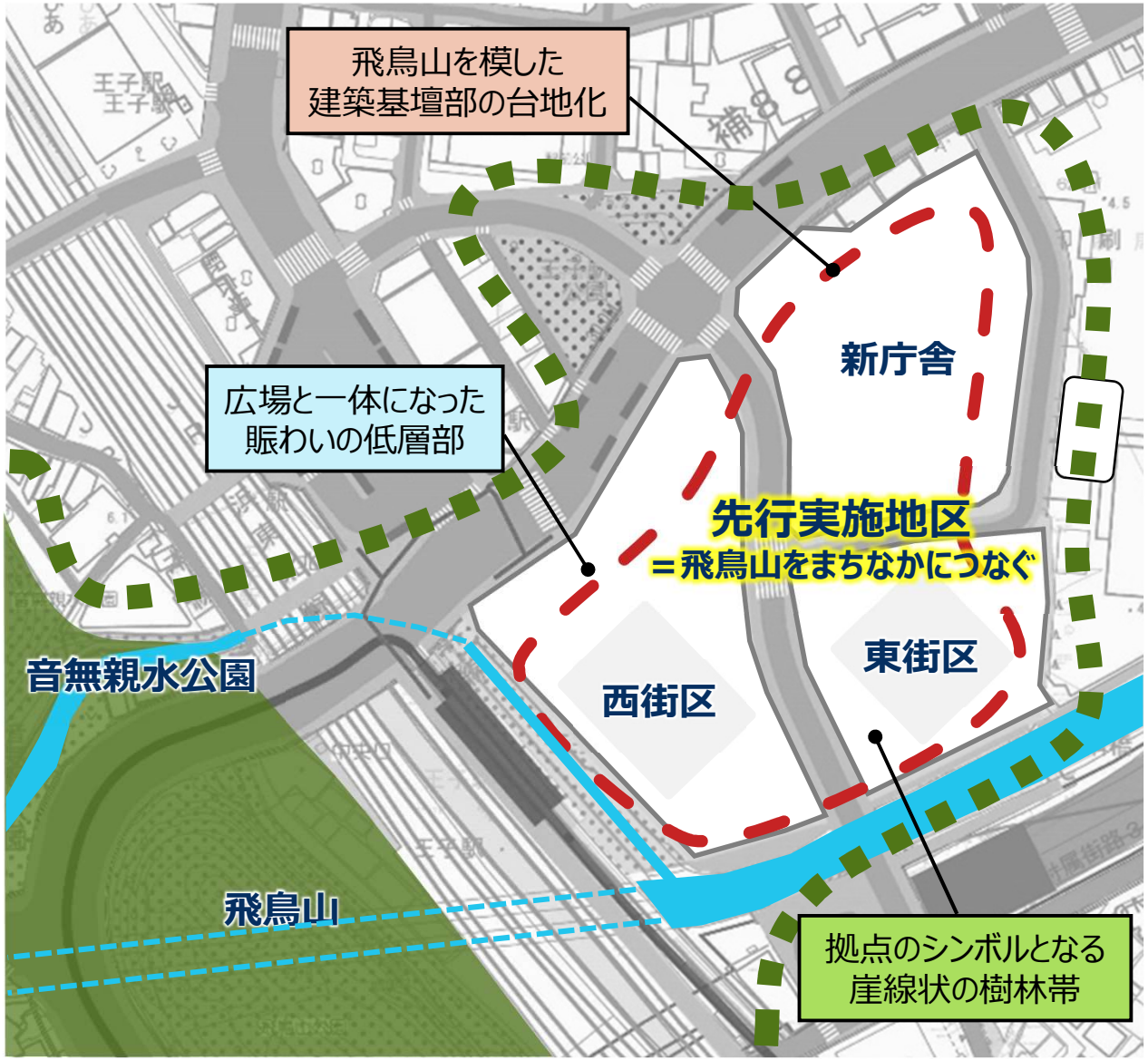
テーマごとの方針

- 緑と広場の方針
- 景観形成の方針
- 災害対応拠点の方針
- にぎわい創出の方針
- その他の方針

➢ 2－2．ランドスケープ・コンセプト

“飛鳥山をまちなかにつなぐ”

- 飛鳥山の台地を模した建築群の基壇部で、安全・安心の拠点となるまちづくりを目指します。
- 飛鳥山の崖線に倣った斜面の樹林帯で、豊かな緑に包まれた新たな都市景観を創ります。
- 飛鳥山の水辺をつなぐ都市の広場で、人々の集いや賑いに資する機能と体制を整えます。



3つの機能の考え方

台地機能

・高台まちづくりの考え方を官民地元で深度化する
・平時や有事の必要機能の分担や連携を図る
・台地の安心感を居心地よい環境づくりで実現する

崖線機能

・飛鳥山との一体感をまちなかの樹林帯で創り出す
・街区を緑で包み込む飛鳥山モデルを標榜する
・崖線の生物多様性ネットワークを都市につなげる

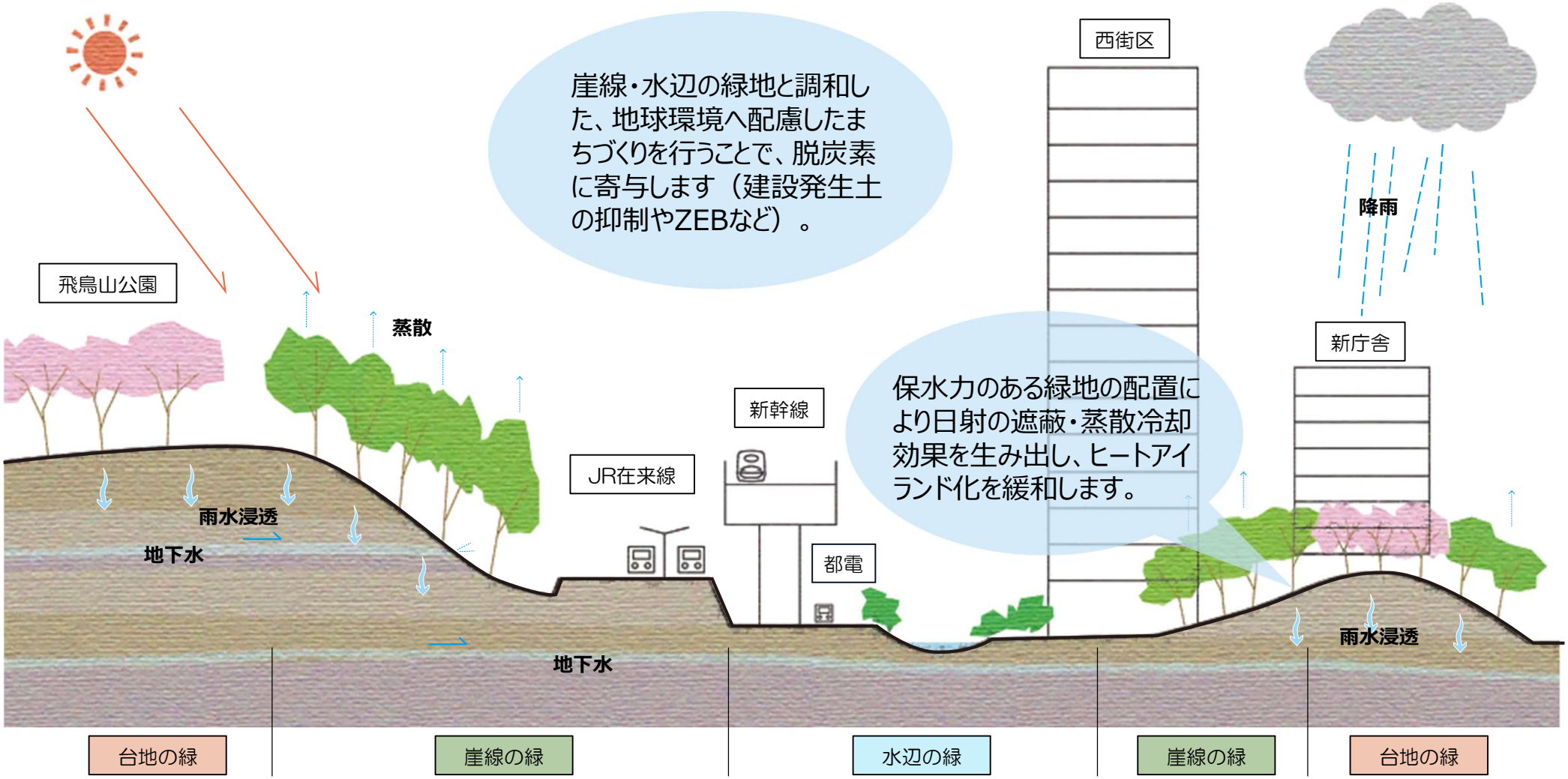
水辺機能

・緑と水のつながりで区民の誇りとなる広場を創る
・広場と低層部が連携しながら集いや賑わいを図る
・水辺環境がつなぐ地域の力をまちなかに展開する

➢ 2－2．ランドスケープ・コンセプト

“飛鳥山をまちなかにつなげるための考え方”

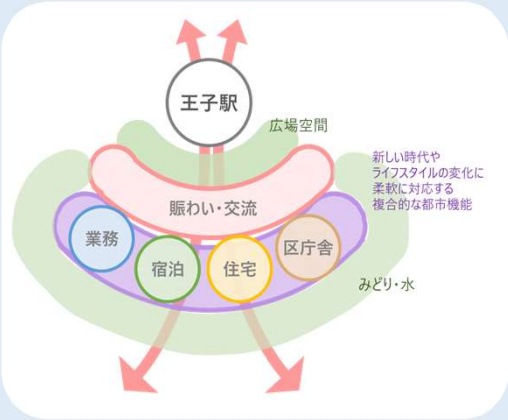
- 地域に愛されてきた飛鳥山の地勢や植生から学び、新しいまちづくりの環境基盤を創り出します。



➢ 2－3．導入機能

方針
北区の都市中心拠点である王子に相応しい、魅力ある顔を形成する商業・業務・居住・宿泊・行政の複合機能の整備

機能と空間の考え方
王子駅中央口と（仮称）庁舎前交差点を中心として、飛鳥山公園と連携する歩行者中心の広場空間と、賑わい・交流の拠点を実現するため、石神井川等の自然環境とも調和した空間に複合機能を導入する。

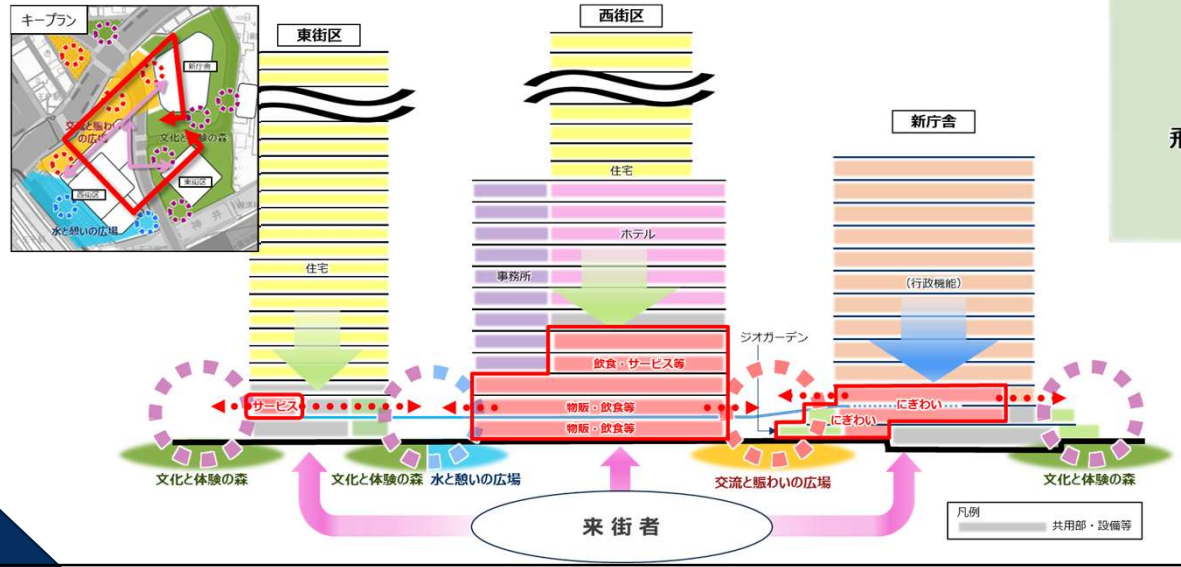


取組１：王子駅中央口と（仮称）庁舎前交差点を中心に、ウォーカブル・ガーデンを体現するシンボリックな広場空間と歩行者動線に面した賑わい・交流の顔をつくる

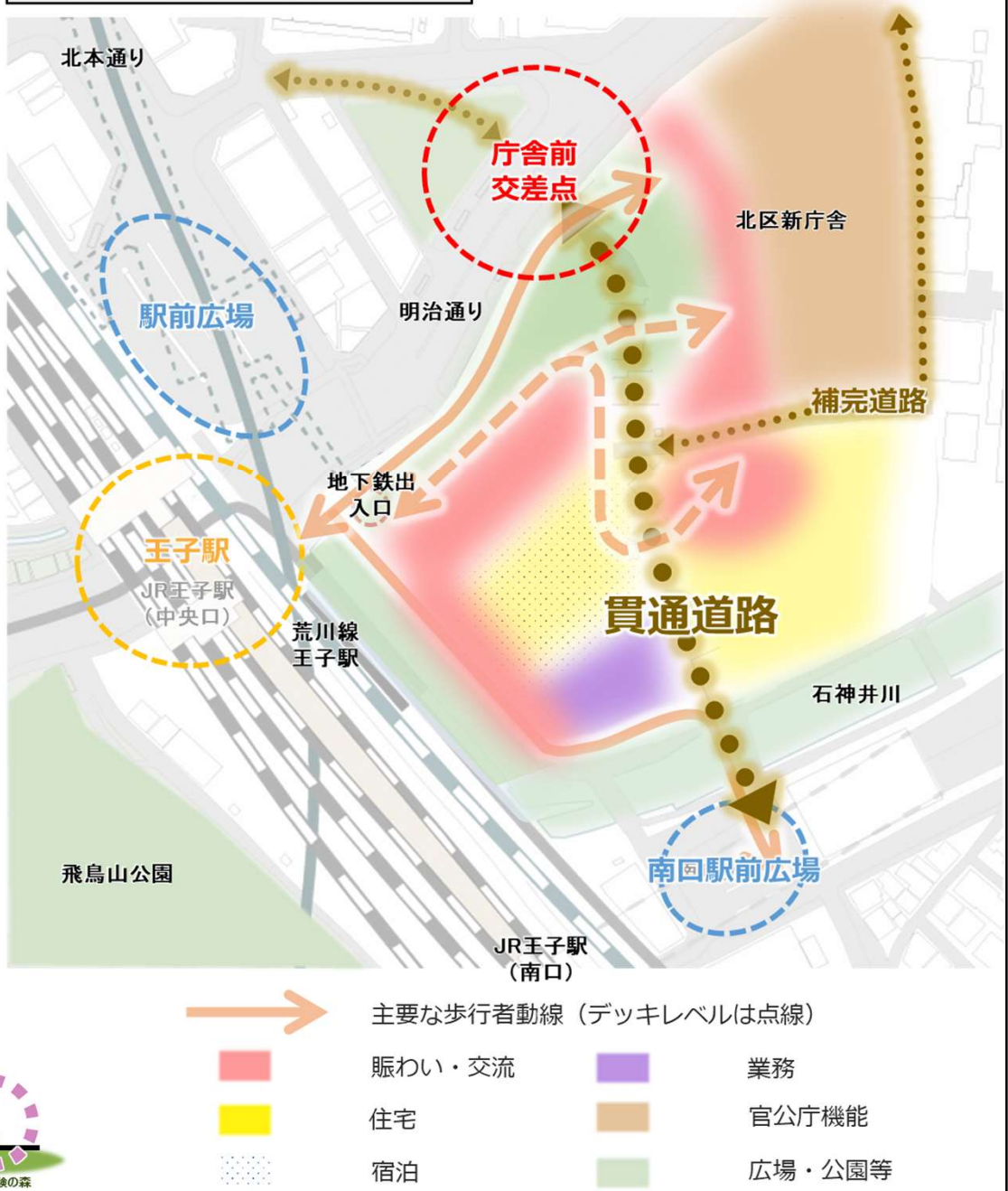
取組２：王子のまちの魅力を向上させるため、新しい時代やライフスタイルの変化にも柔軟に対応する、複合的な都市機能（商業・業務・居住・宿泊・行政）を導入する。

取組３：王子の交通利便性や飛鳥山・石神井川等の地域資源を活かし、自然環境と調和した居住・生活機能を実現する

■低層部の機能分布の断面イメージ



■機能分布のゾーニングイメージ



3．テーマごとの方針

➢ 3－1．緑と広場の方針　（1）緑の配置

- 新庁舎、東街区を中心にまとまりのある「台地や崖線の緑」を配置する。
- 「都市的な緑の景観軸」には広場空間を創出しながら、飛鳥山をつなぐ象徴的な緑を 配置する。
- 石神井川沿いには、飛鳥山とまちなかをつなぐ「水辺の緑」を配置する。

緑の創出のイメージ

- 飛鳥山とつなぐエリア
- 都市的な緑の景観軸
- 水と緑のネットワーク軸

➢ 3－1．緑と広場の方針　（2）広場の配置と役割

- 3つのテーマによりゾーニングし、場所の特徴や歴史をふまえた個性ある屋外空間を創出します。
- 個々の広場は適正配置を行い、周囲の状況や隣接する建物に応じてそれぞれ異なる役割を担います。
- 既存の王子駅前公園は機能再編し、北口周辺のまちづくりが本格化するまでは地域の交流空間として活用します。
- 人々の交流や活動、緑の保全・育成に持続的に取り組むための仕組みをつくります。

シンボルツリーのあるポケットパーク

地域の交流空間

行き交う人々や出店等で賑わうまとまりのある広場

コネクティング・コアを備えた駅まち空間

水と緑に溢れた王子を象徴する居心地の良い広場

庁舎とまちをつなぐゲート空間

自然と触れながら遊びと学びを体験するプレイマウンテン

歴史と文化が薫る道

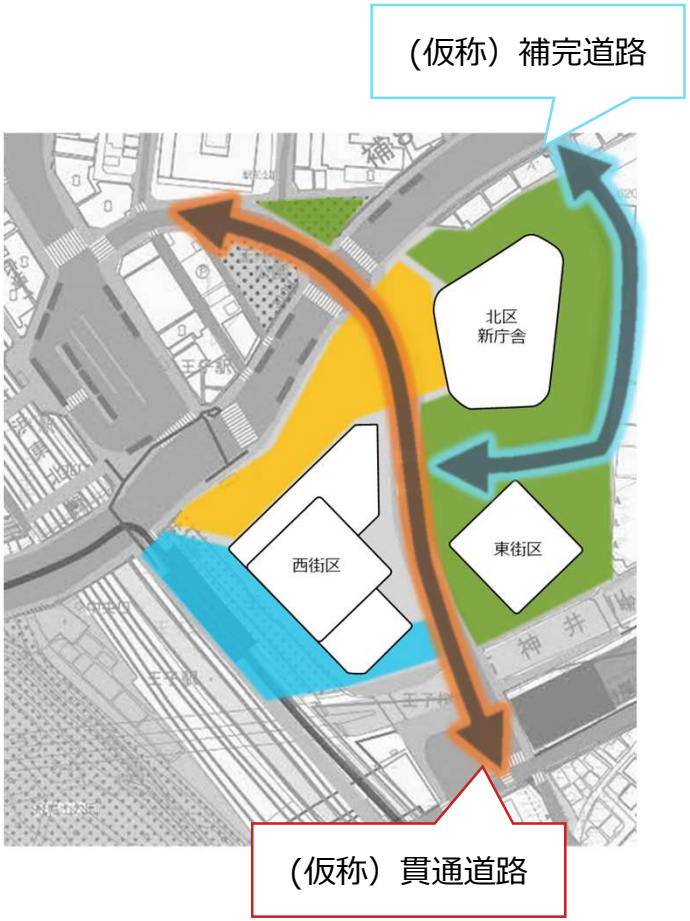
密度の濃い緑を備えたオープンスペース

新たな河川景観を創出し、河川に向けた顔となる橋詰広場

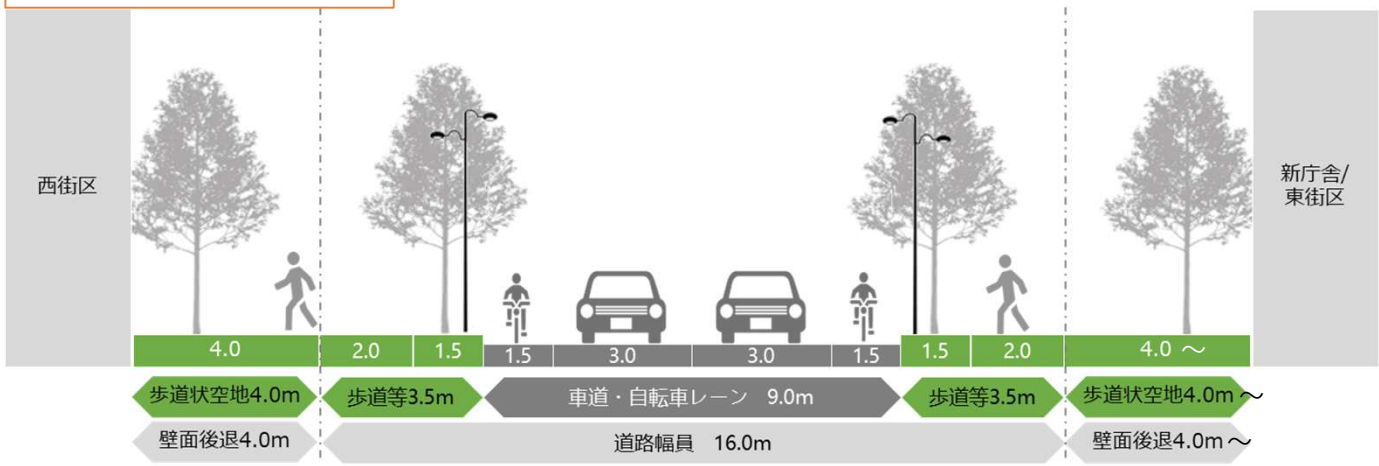
※整備イメージは仮置き

➢ 3－2．歩行者空間の方針　（1）みちづくりの方針

- 南北のまちをつなぎ新たな交流を生み、防災対応にも資する「貫通道路（名称要検討）」を整備し、道路には地区の骨格となる緑を配置します。
- 新庁舎や国立印刷局王子工場等へのアクセスするために必要な「補完道路（名称要検討）」を歴史と文化が薫る道として整備します。



（仮称）貫通道路断面

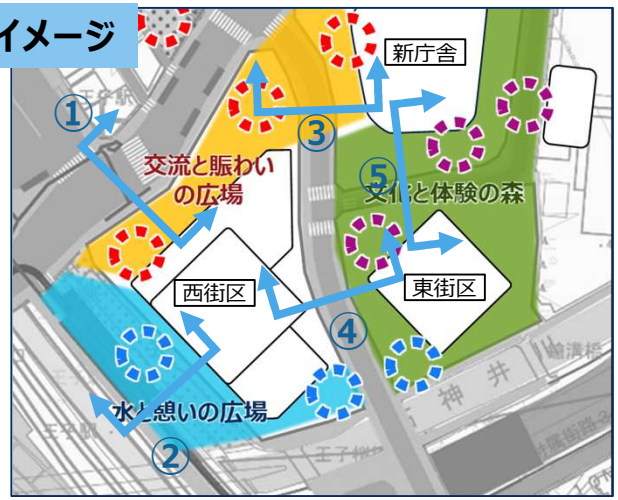


（仮称）補完道路断面

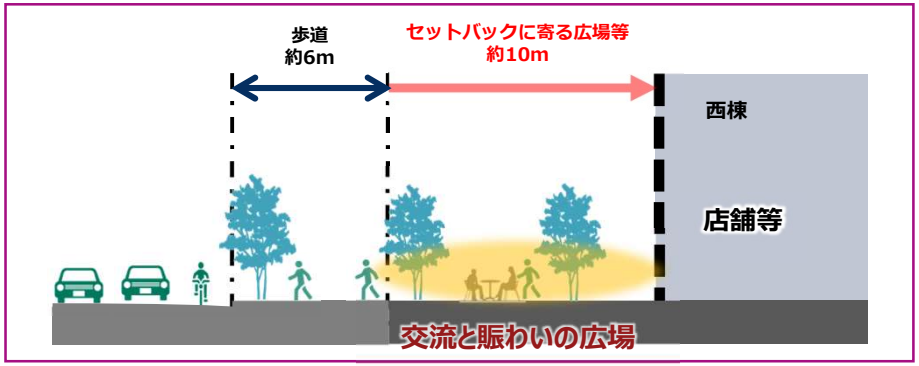
※調整中

➢ 3－2．歩行者空間の方針　（2）沿道空間形成の方針

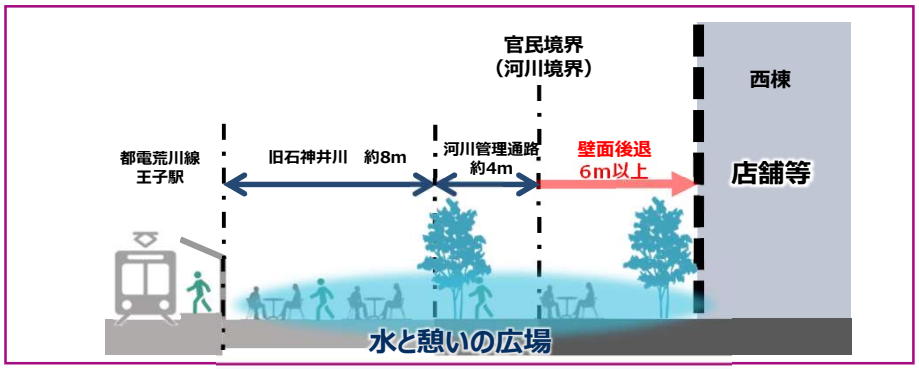
セットバックイメージ



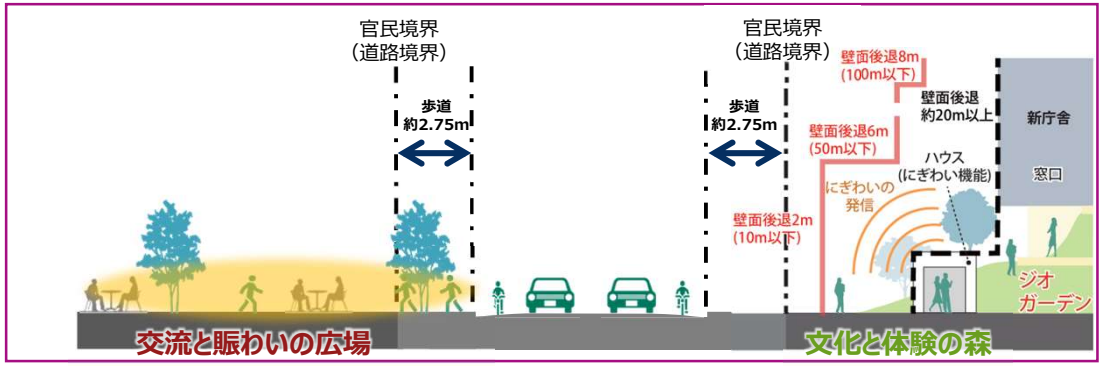
①明治通り



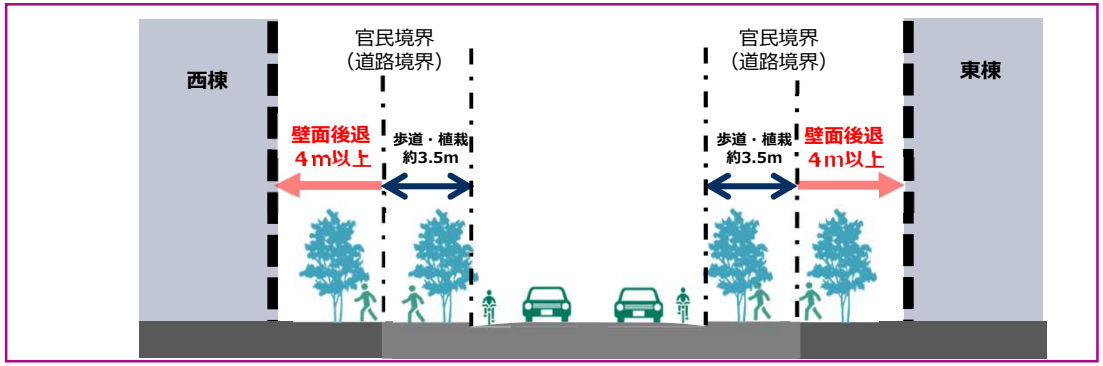
②石神井川（都電脇）



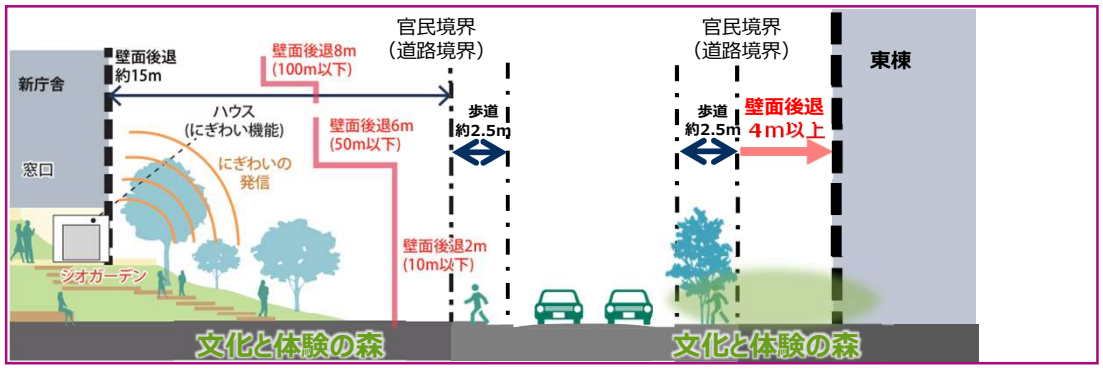
③貫通道路（北側）



④貫通道路（中央）



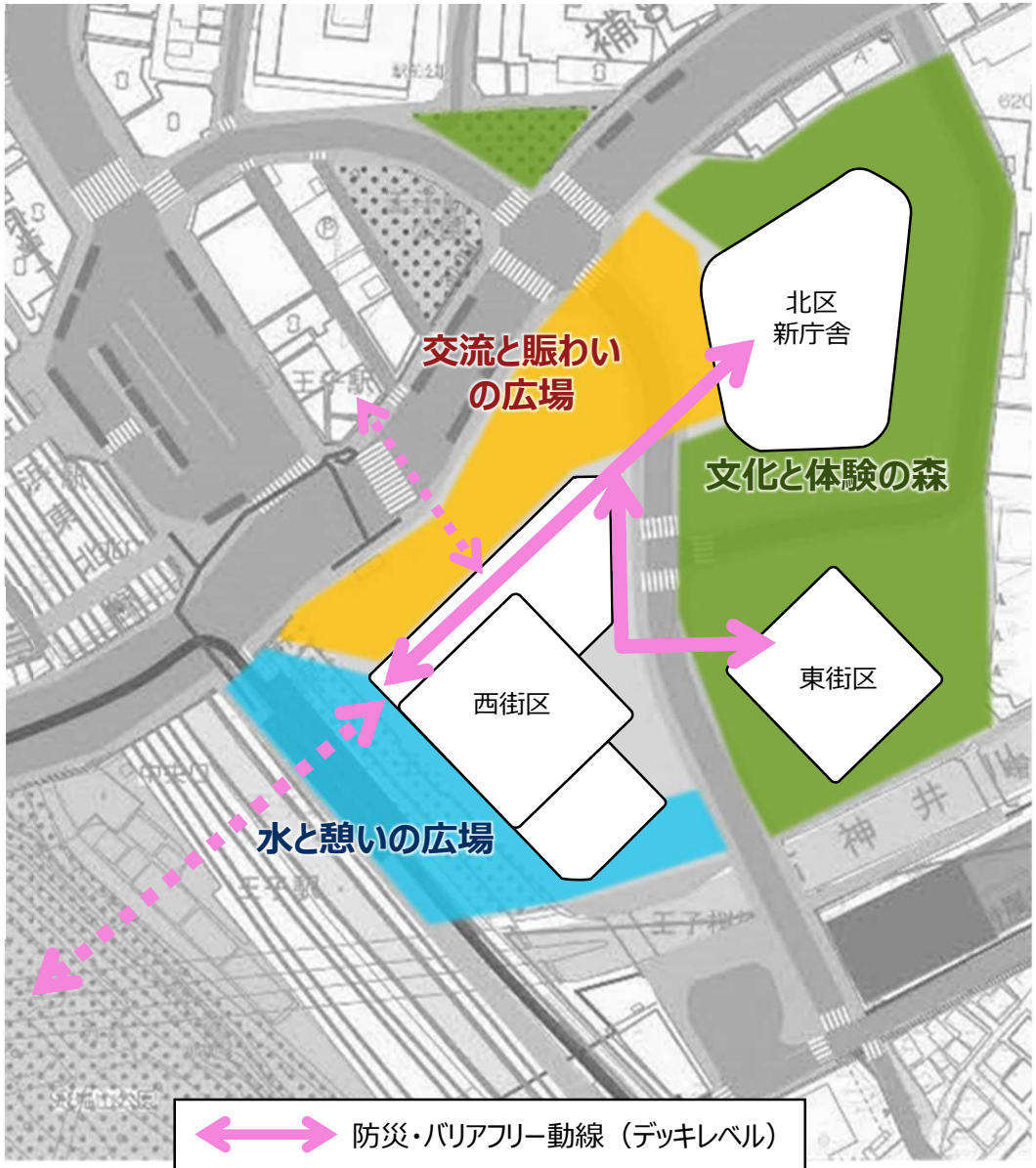
⑤補完道路



➢ 3－2．歩行者空間の方針　（3）歩行者動線

- 地上の広場の役割と連動したみちづくりにより、交流と賑わい、水と憩い、文化と体験のそれぞれを感じられるような、　道路と広場が一体となった歩行者空間を形成していきます。
- デッキレベルには、将来的な飛鳥山の高台や北口方面への接続を見据えた、防災・バリアフリーに資する歩行者ネットワークを形成します。

図中の数字は歩行者交通量（人/朝ピーク時）



➢ 3－3．景観形成の方針　（1）景観形成に関する上位計画

20　飛鳥山を中心とした景観形成　関連するプロジェクト 15

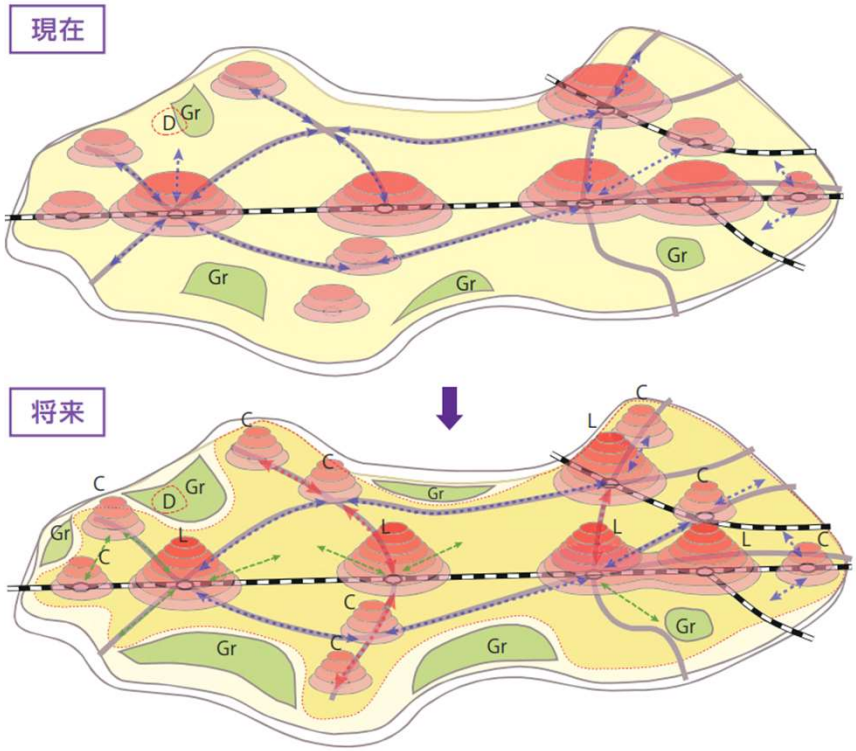
駅前の高度利用と景観形成の両立を図り、飛鳥山上空への広がりや公園内からの眺望景観の保全を行うなど、飛鳥山が引き立ち広がりのある景観づくりを行います。

王子駅周辺まちづくりガイドラインより

駅前の高度利用

- 王子駅周辺まちづくりガイドラインをはじめ、上位計画において、**駅周辺は機能集積と高度利用を図る**こととしています。

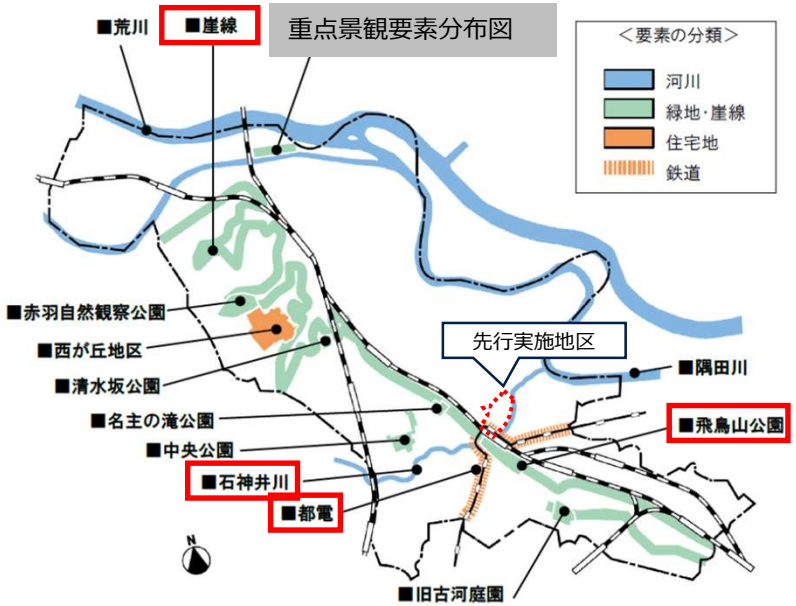
集約型の地域構造のイメージ



都市づくりのグランドデザイン（東京都）より

- **主要駅周辺の建物高さとの比較**等を考慮した**王子駅前にふさわしい適切な建物高さのあり方**を検討する必要があります。

景観形成



景観方針地区（飛鳥山周辺）の概要

景観まちづくりの目標	1　区民に親しまれる花やみどりのうるおいがある景観づくりを進める 2　公園からの眺望を保全する 3　周辺の景観資源や王子駅との調和を図る 4　歴史的・文化的景観を次世代に継承する
良好な景観づくりに関する方針	1　花やみどりを保全し、活用しながら景観づくりを進める 2　飛鳥山公園が引き立つ広がりがある景観づくりを図り、眺望を保全する 3　周辺の景観資源、王子駅周辺のまちなみとのつながりや一体感を演出する 4　歴史的・文化的景観を保全、活用した景観づくりを進める

北区景観づくり計画より

- 王子駅周辺には、**飛鳥山公園**をはじめ、**崖線**、**都電**、**石神井川**など重要景観要素が集積しており、**それらの特徴を活かした景観づくり**が求められます。
- 特に**飛鳥山公園からの眺望保全**や**一体感**など飛鳥山が引き立ち広がりのある景観づくりが必要です。

駅前の高度利用 と 景観形成 の両立

➢ 3－3．景観形成の方針　（2）景観形成の考え方

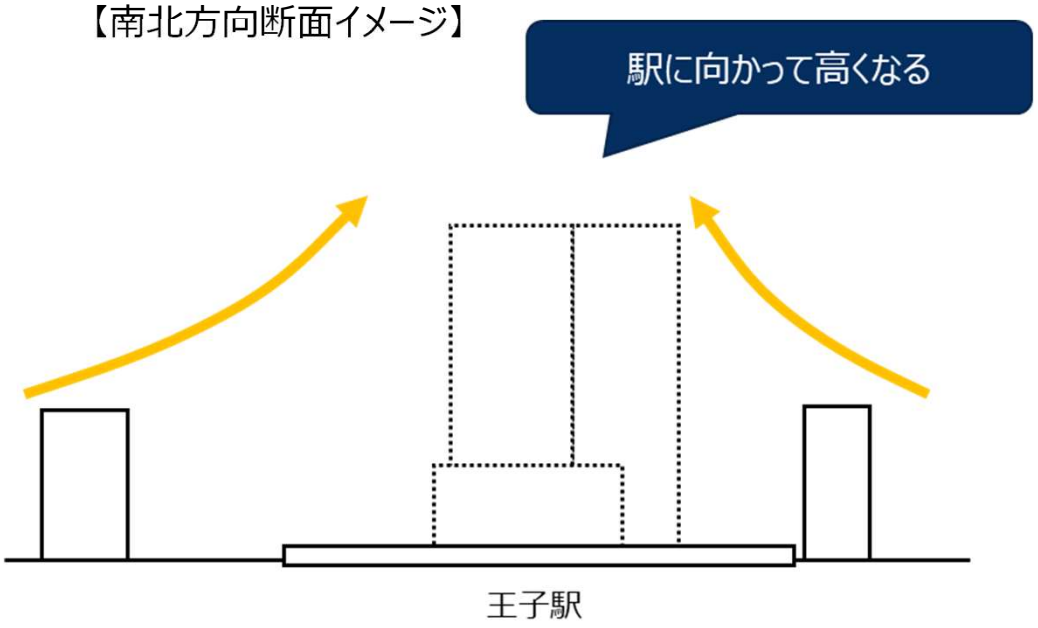
①中心拠点にふさわしい景観の形成

- 東京の北の交流拠点として、活力を感じられるまちなみを形成します。
- これまで、王子のシンボルとして区民に親しまれてきた「北とぴあ」よりも駅直近にあたる先行実施地区では、新たな王子のランドマークとなるよう駅に向かって高くなるスカイラインを形成します。
- 来街者にも強く印象に残るまちのイメージを発信するとともに、シビックプライドの醸成に寄与する景観を形成します。

【北とぴあ】

【ザ・タワー十条】

【南北方向断面イメージ】



➢ 3－3．景観形成の方針　（2）景観形成の考え方

②飛鳥山公園からの眺望保全

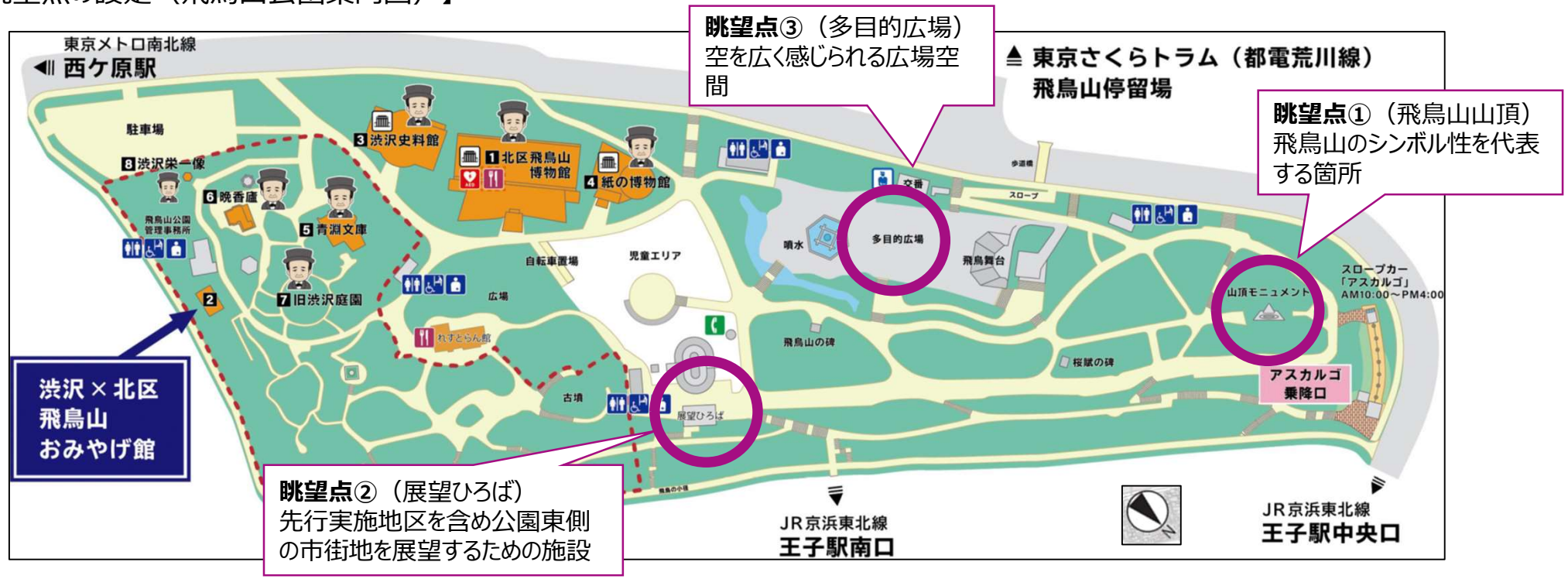
- 先行実施地区の景観づくりのための眺望点を設定し、上空への広がりへの影響を考慮します。
- 飛鳥山公園の景観特性である、上空への広がりが感じられる空間をまもるため、飛鳥山公園から見える高層部は空に溶け込むデザインとし、眺望に配慮します。

飛鳥山公園(多目的広場)からのイメージ

古今東京名所　飛鳥山公園地王子製紙会社

中判横　歌川広重（三代）　明治16年(1883)

【眺望点の設定（飛鳥山公園案内図）】



➢ 3－3．景観形成の方針　（2）景観形成の考え方

③飛鳥山公園との一体感

- 高台まちづくりならではの景観形成を行います。
- 飛鳥山公園は、花やみどりがあふれる憩いの場として多くの人々に親しまれており、春には桜を、初夏にはアジサイを楽しむ方でにぎわいます。本地区にもおいても、花やみどりが豊かで、飛鳥山公園からの連続性が感じられる景観づくりを行います。
- 地上部のほか、見上げた先に目に見えるみどりを効果的に植栽します。
- 飛鳥山公園が見える視点場の創出を検討します。

④駅前の開放感

- 駅に降り立った人が開放感を感じられる駅前景観を形成します。
- 駅前にはゆとりのある歩行者空間を配置し、建築物は圧迫感を軽減する形態、デザインとします。

➢ 3－3．景観形成の方針　（2）景観形成の考え方

⑤建築物等の統一感

- 本地区内の各建築物に統一感と調和が生まれるよう、デザインします。
- 外壁は緑が映える落ち着きのある色彩とするなど、周辺との調和を図ります。（色彩基準作成予定）
- 圧迫感を軽減するため、壁面の分節化等を行います。
- サインや舗装など、エリアで統一感のあるデザインとします。

⑥まちの記憶の継承

- 江戸時代からにぎわい・交流の場であった飛鳥山の歴史に連なる新たなにぎわいと交流を生み出します。
- 王子七滝を思わせる水景や洋紙発祥の地であった歴史など、次世代にまちの記憶を継承します。

⑦他の景観資源との連携

- 都電沿いの空間を緑化することでみどりに包まれた都電という唯一無二の景観を作り出します。
- 石神井川のうるおいが感じられる親水空間を創出します。

⑧夜間景観の形成

- 地区としての一体性に配慮するとともに、不快な光を抑制し、駅前空間として相応しいライトアップを計画します。
- 水とみどりが際立つ景観を演出します。

➢ 3－4．災害対応拠点の方針　（1）高台まちづくりの方針

国・都・沿川７区では、荒川等の氾濫時に命の安全と最低限の避難生活を確保する「高台まちづくり」に取り組んでいます。

高台まちづくりのイメージ

建築物等（建物群）による高台まちづくり

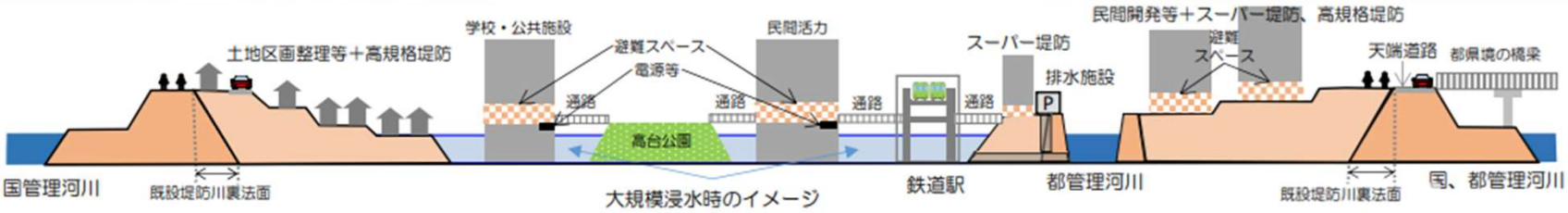
〔平常時〕賑わいのある駅前空間
〔浸水時〕避難スペース等を有する建築物とペデストリアンデッキ等をつないだ建物群により命の安全・最低限の避難生活水準を確保

高台公園を中心とした高台まちづくり

〔平常時〕河川沿いの高台公園
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。道路や建築物等を通じて浸水区域外への移動も可能

高規格堤防の上面を活用した高台まちづくり

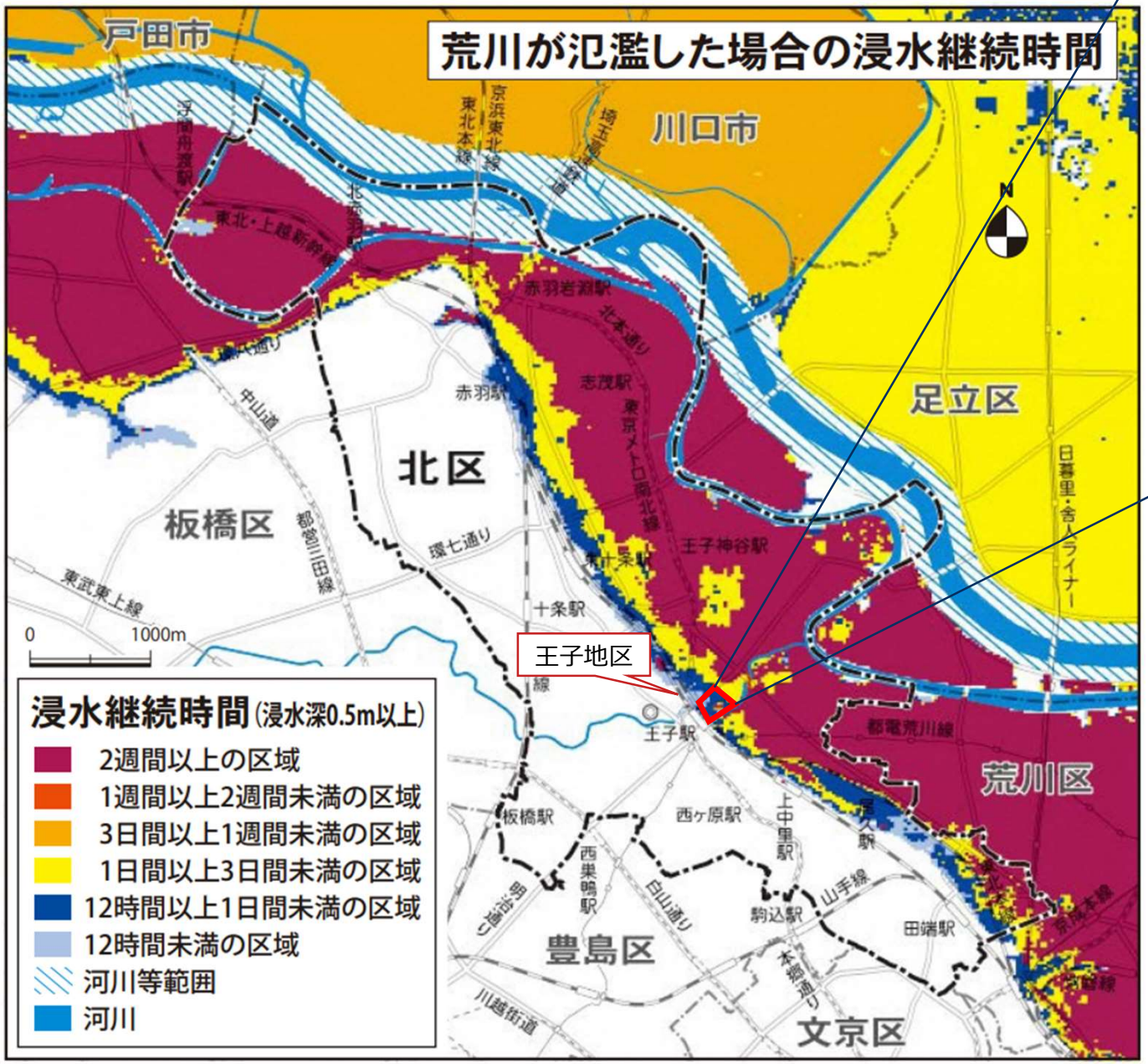
〔平常時〕良好な都市空間・住環境を形成
〔浸水時〕緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能。浸水しない連続盛土等を通じて浸水区域外への移動も可能



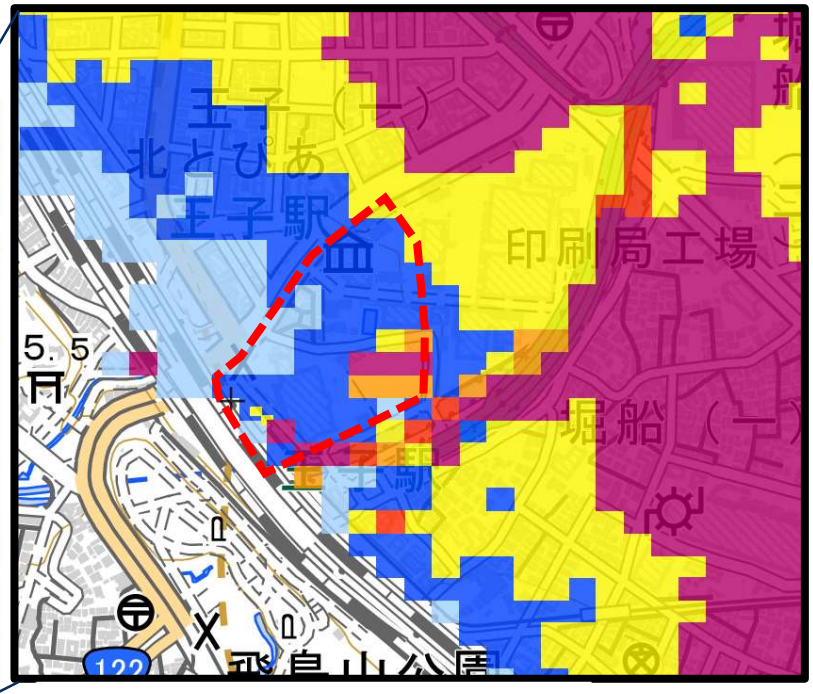
災害に強い首都「東京」形成ビジョン【参考資料】（令和2年12月）より

➢ ３－４．災害対応拠点の方針　（１）高台まちづくりの方針

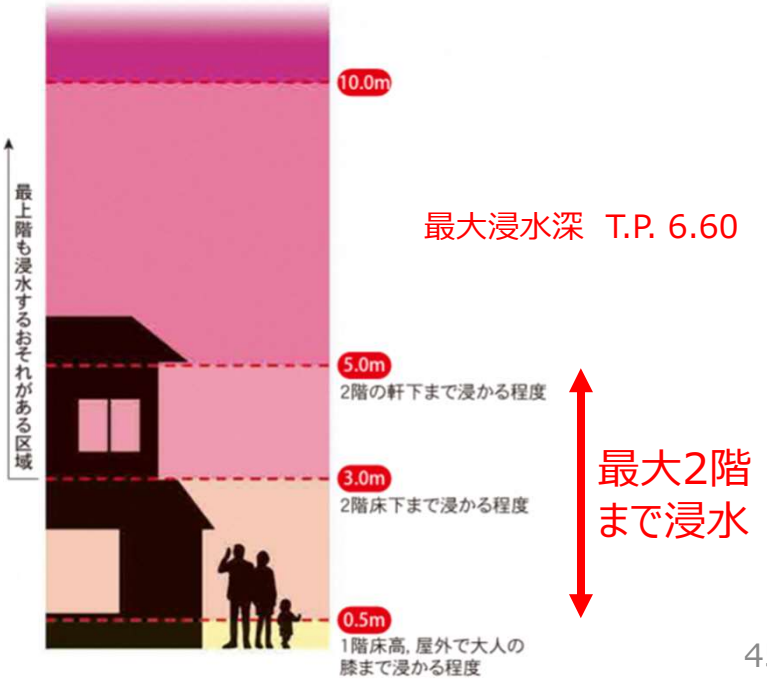
【大規模水害時の浸水状況】



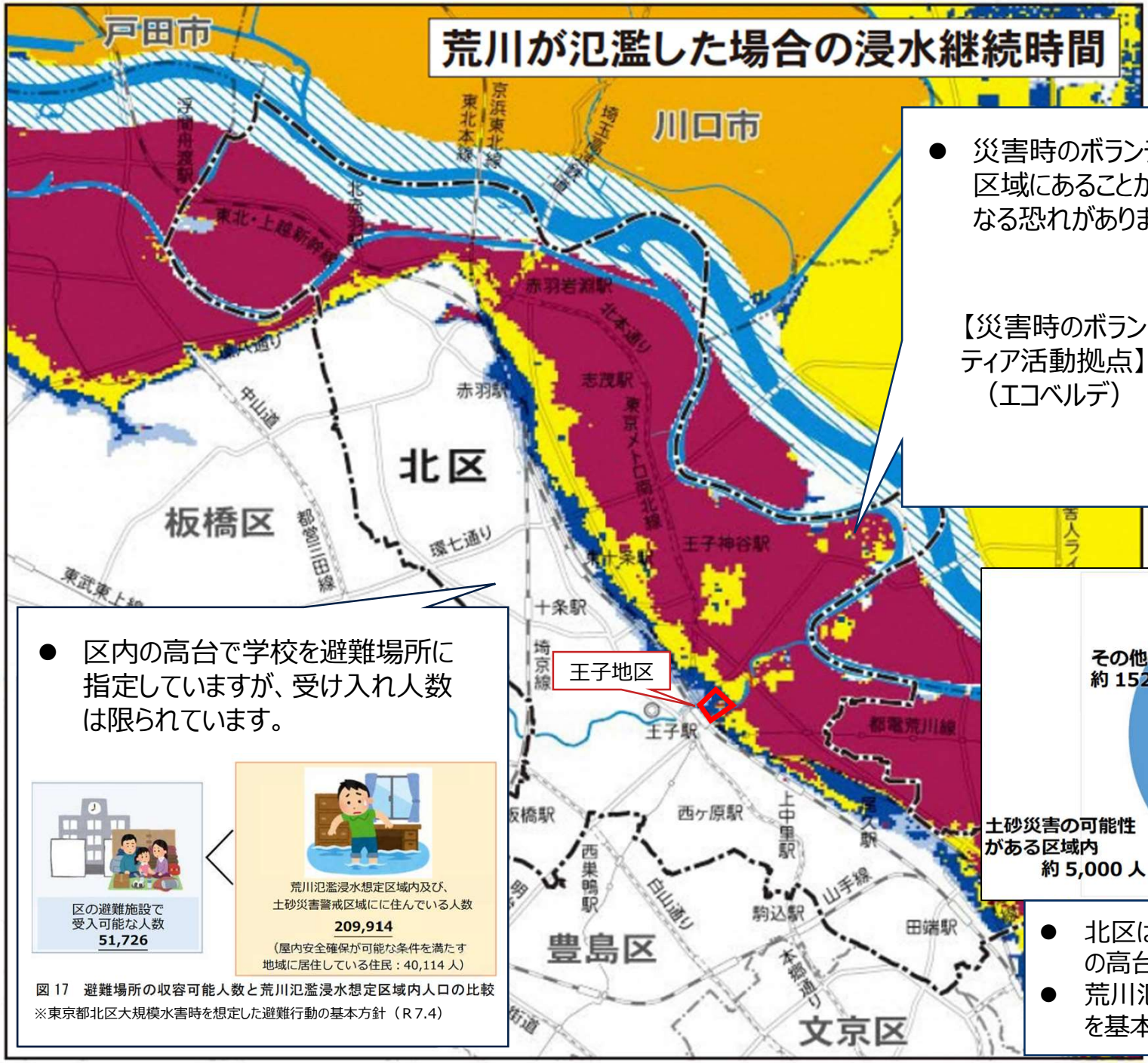
【王子地区拡大図】



想定される浸水深（ランク区分）と目安



➢ 3－4．災害対応拠点の方針　（1）高台まちづくりの方針



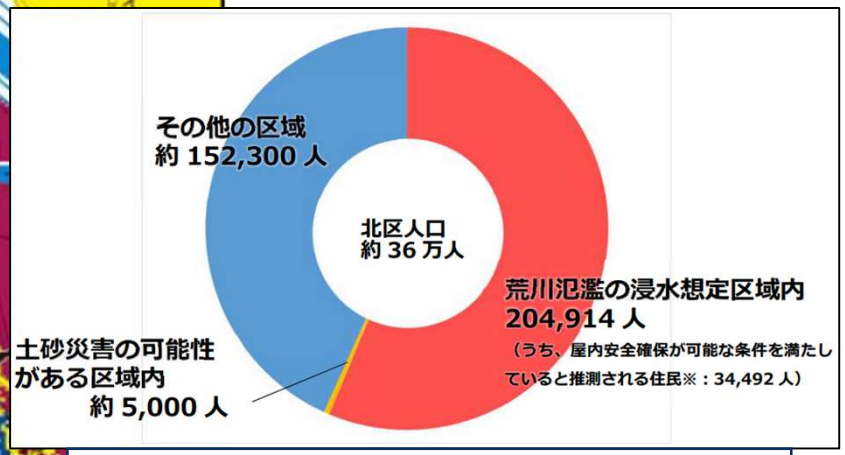
- 災害時のボランティア活動の拠点となる施設が浸水区域にあることから、円滑なボランティア活動が困難となる恐れがあります。

【災害時のボランティア活動拠点】
（エコベルデ）

- 区内の高台で学校を避難場所に指定していますが、受け入れ人数は限られています。

図 17　避難場所の収容可能人数と荒川氾濫浸水想定区域内人口の比較
※東京都北区大規模水害時を想定した避難行動の基本方針（R7.4）

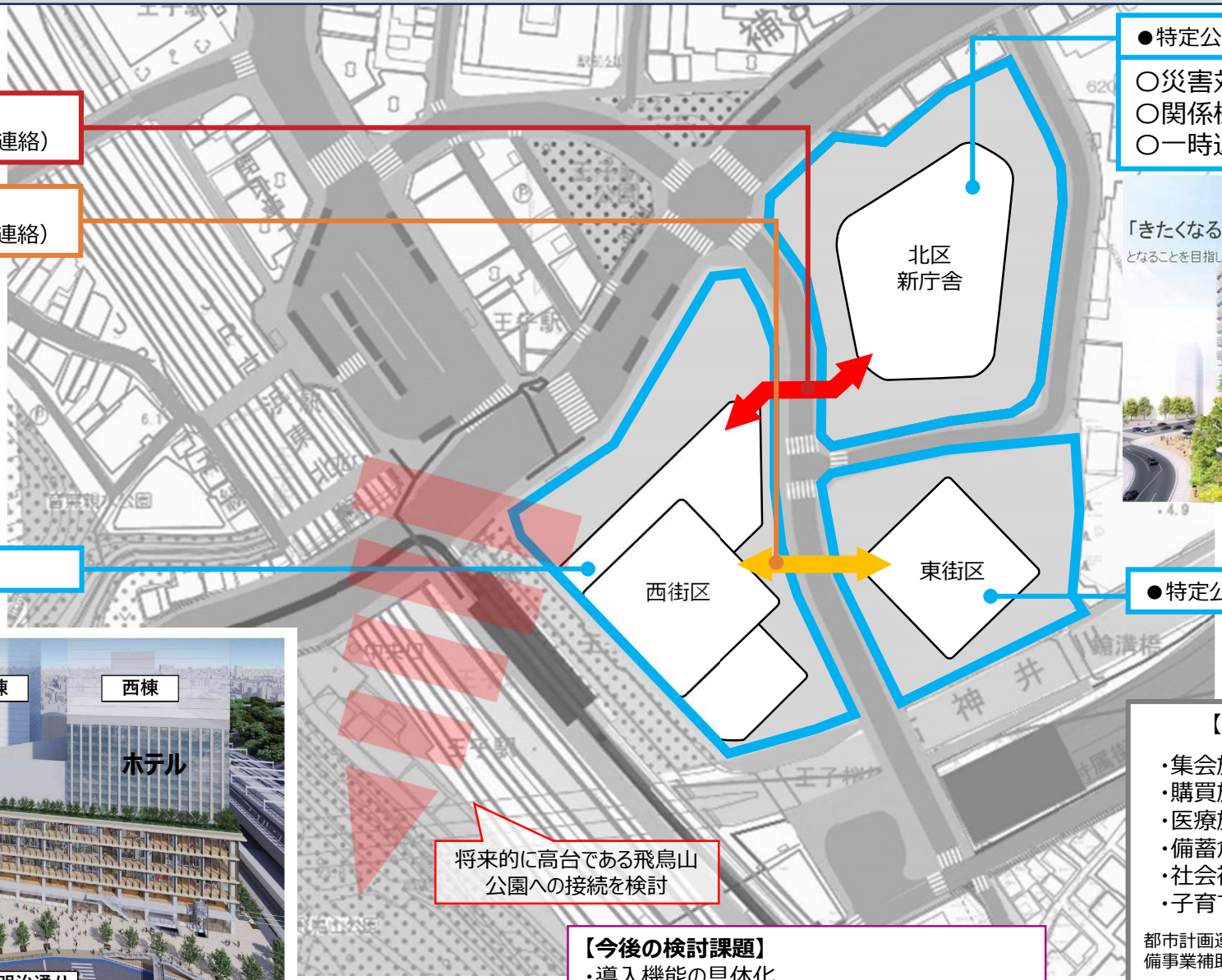
【避難者数の想定】



- 北区は武蔵野台地の縁辺部にあたり、西側の高台と東側の低地に分かれています。
- 荒川氾濫時は「できるだけ遠くの高台へ避難」を基本方針としています。

➢ 3－4．災害対応拠点の方針　（1）高台まちづくりの方針

災害対策の中心となる新庁舎と**避難者の受け入れ・避難生活支援施設**を接続することで
建物群としての**災害対応拠点を形成**



●公共施設（道路）
非浸水動線（建物間連絡）

●特定公益施設D
非浸水動線（建物間連絡）

●特定公益施設A

〇災害対策本部機能の強化
〇関係機関や団体との連携強化
〇一時退避場所の整備

●特定公益施設B

●特定公益施設C

広場、デッキの整備イメージ

【 特定公益施設の例 】

・集会施設
・購買施設
・医療施設
・備蓄倉庫等
・社会福祉施設
・子育て支援施設　など

都市計画運用指針および都市安全確保拠点整備事業補助対象施設より抜粋

【今後の検討課題】
・導入機能の具体化
・施設規模等の検討に必要な避難者数の想定

●：一団地の都市安全確保拠点施設

➢ 3－4．災害対応拠点の方針　（2）震災時の対応方針

首都直下地震等の際には、王子駅前等には多くの滞留者が発生し、行き場のない帰宅困難者（北区全域で約7,800人）の発生も予測されます。王子駅周辺には既存の一時滞在施設は存在しますが、駅直近は北とぴあのみであり、駅前にあたる本地区では、一時滞在施設等の震災時の対応における重要な役割を担います。

災害対策本部の設置

国立印刷局王子工場との連携

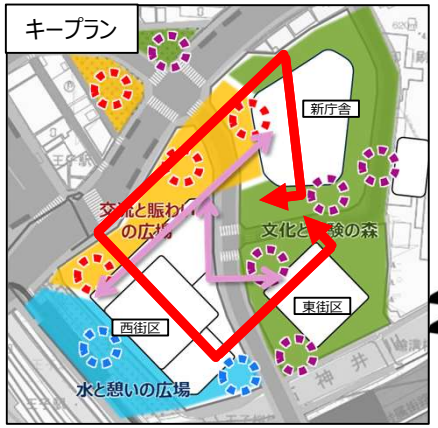
公民連携による災害時の広場空間活用

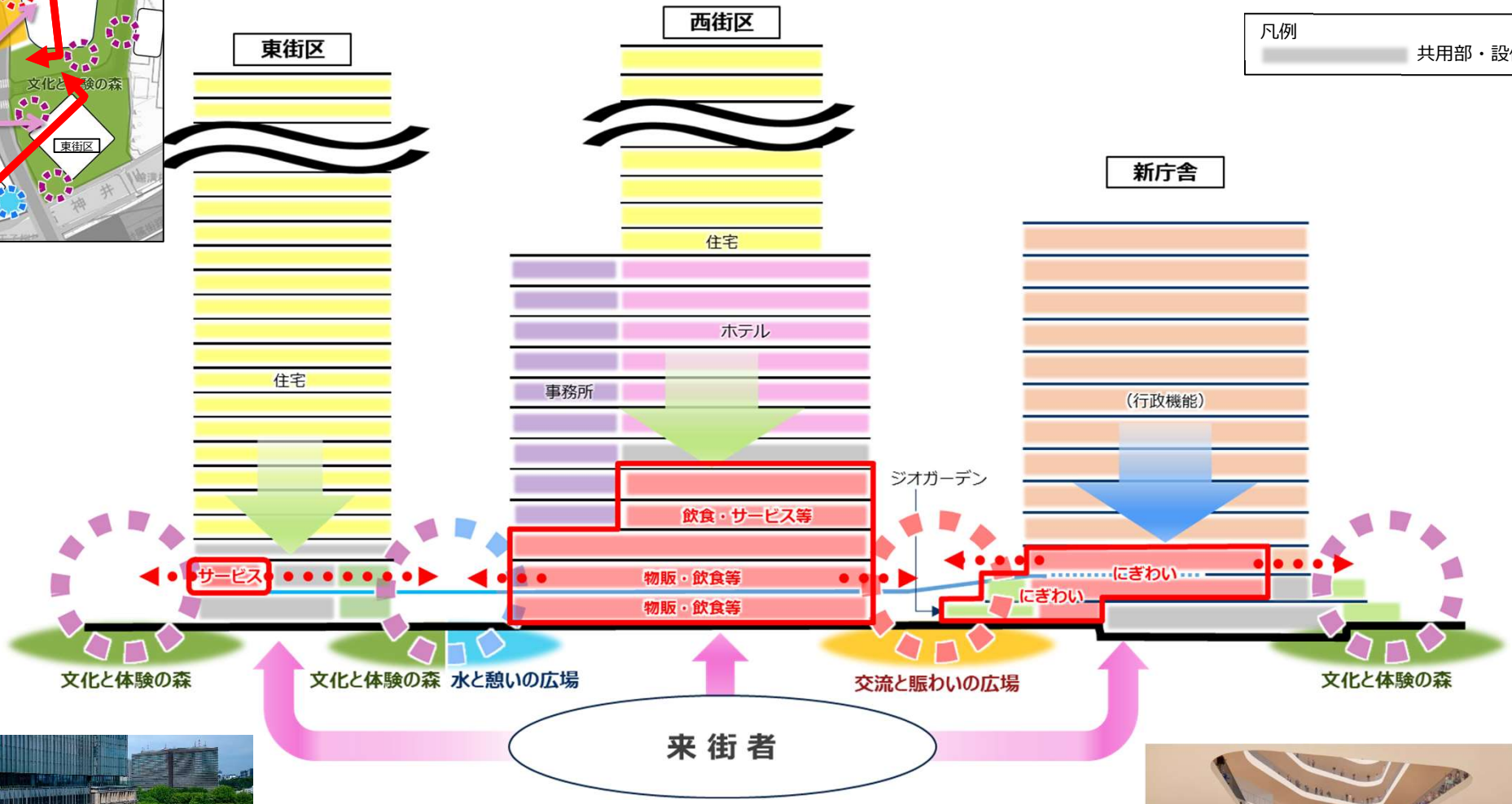
駅前に滞留可能な広場空間の確保

一時滞在施設と防災備蓄の確保

➢ 3－6．にぎわい創出の方針　（1）賑わいに資する機能と空間構成

- **質の高い豊かな生活と就業の場を創出するため**、住宅、商業、業務、ホテル等の多様な機能を導入します。
- デッキや道路、広場等の整備により、**人々の移動を促し各街区間のつながりを強化します。**
- 屋内外の一体的な利用や街区間の連携を促し、**まちに開かれた賑わいを演出します。**





低層部の賑わいイメージ
（日比谷ミッドタウン）

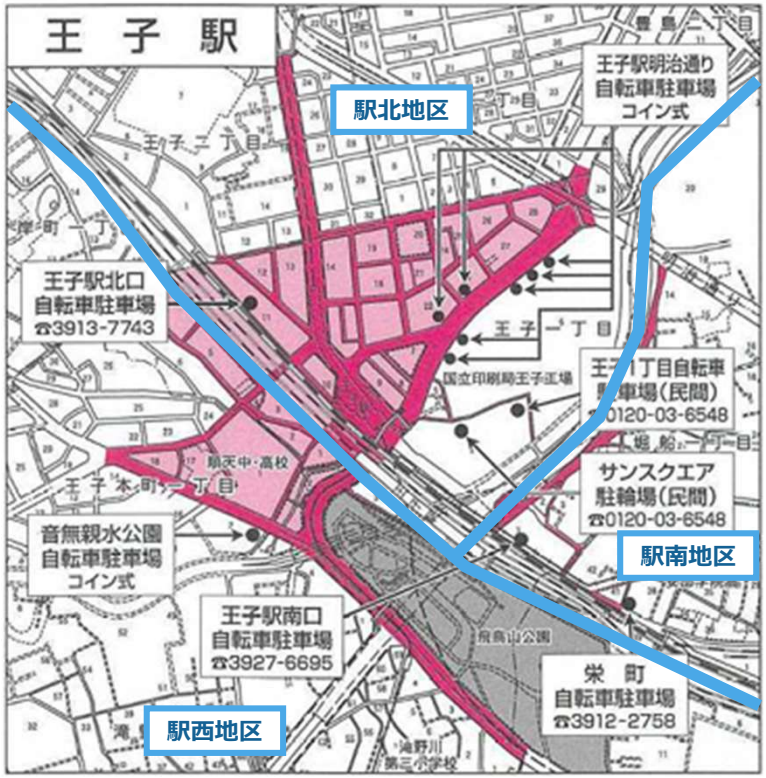
※配置や高さは現時点でのイメージで変更となる可能性があります

連続したにぎわいと区民協働の場

➢ 3－7．駐輪場配置の方針　自転車ネットワーク・駐輪場の配置

- ウォーカブル・ガーデン内の自転車通過動線は明治通り・貫通道路に限定
- 駐輪場はできるだけフリンジとなる位置（駅出入口から約200m程度の位置）に設置
- 放置駐輪防止につながる台数・配置をめざす
- 駅北地区には、現在サンスクエア駐輪場、王子一丁目駐輪場はあるものの、一般利用が可能な駐輪場は不足している。
- 各街区で分担し、駐輪場を整備することで放置自転車のないまちを目指す。

▼放置自転車禁止区域



▼自転車NWの考え方